



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

115名が晴れやかに 牧野学舎で最後の医学部入学式



2~4面に関連記事

平成25年度の枚方新学舎統合移転に伴って牧野学舎で最後となった医学部入学式の後、新入生たちは爽やかな表情で集合写真に収まりました=4月5日(木)

CONTENTS

入学式	2	内部監査室	26
法人 関西医科大学天満橋総合クリニック開院	5	医療安全管理センター	26
東邦大学小山信彌教授招聘講演	5	病院	27
退任の挨拶	8	卒後臨床研修センター	30
就任の挨拶	10	附属看護専門学校	33
大学 教員評価優秀者表彰	12	同窓会・メディア情報	35
1学年学生生活スタート	15	お知らせ	36

平成24年度医学部入学式を挙行

「平成24年度医学部入学式」が4月5日(木)午後1時30分から、教養部(牧野)学舎で執り行われました。今年の新入生は115名で、新入生たちは緊張した面持ちを浮かべる一方で、これからスタートする大学生活に向けて、気持ちを新たにしました。会場には大阪医科大学の竹中洋学長をはじめとしたご来賓のほか、約140名の保護者をご臨席されました。式典はコールクライスのリードのもと、会場全体で学歌を斉唱した後、山下敏夫学長が告辞を述べました。さらに、新入生を代表して大池由夏さんが宣誓、在校生代表の塩見見司さん(2学年)が歓迎の言葉を贈り、新入生を温かく迎え入れました。

本学の学生は平成25年度以降、1学年から枚方新学舎で学ぶことが決まっており、教養部学舎での入学式は今年が最後となります。長年、新入生が門出を迎えた学舎での最後の入学式を見て、名残を惜しむ教職員の声も聞かれました。

山下学長告辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日男子70名、女子45名計115名の皆さんを迎えて、平成24年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、まことに大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。見事に難関を突破されての合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々々に心からお祝いを申し上げます。

さて皆さんは本日の入学式を迎えて、喜びとともに、これからの本学で始まる大学生活への大きな期待と、そして少しは不安も抱いておられることでしょうか。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどのような大学か、歴史、現況、近い将来像などについてまずお話しいたします。

本学は1928年に濱地藤太郎先生により大阪女子高等医学専門学校として創設されました。その後、1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,600名を数え、創立84周年を迎えたという歴史のある学校です。その長い歴史の一端を示すのが、現在入学式が行われているこの講堂で、これは昭和13年に建築された建物です。皆さん天井を見上げてください。空から巨大な竜が迫り、周囲を鳳凰が舞う、縦15メートル、横6メートルの長円に極彩色で描かれた天井画です。この画は明治21年に大阪画壇屈指の上田耕沖らの実力者たちが集結して描いたもので、この講堂建築時に府立大阪博物場から移築され、今や大阪の文化財の1つとなっています。今年は辰年です。辰は架空の動物「竜」のことで、天を目指して昇ることから「昇竜」といわれ、大変めでたい干支の代表です。この辰年に「昇竜」の絵の下で入学式を迎える皆さんには、今後強運が付いて回ると信じています。

次に現状と近未来についてお話しします。本学は次々に新しい施設を作り、日々進歩する医学・医療の先端を行く努力をしています。具体的には6年前に本学の基幹病院である枚方病院を京阪枚方市駅前に開院しまし

た。この病院は施設、医療設備ともに、日本有数の病院と自負できます。事実、病院ランキングでは最も定評のあるダイヤモンド誌の「頼れる病院」ランキングで、昨年秋に枚方病院は栄えある西日本一の評価を受けました。さらに一昨年の7月には京阪香里園駅前に香里病院が開院し、順調に経過しています。この新しい2つの病院に従来からある滝井病院を加え、本学は3附属病院体制で医療を行っています。また予防医療に力を入れるために、従前よりあったOMMメディカルセンターを本年4月より本法人の中に組み入れ、名前を関西医科大学天満橋総合クリニックに変えました。加えて、あとで述べます新学舎完成後、間をおかず滝井病院の新棟新築を含めた大改造を計画しています。これらを整え、本学は大阪北東部の健康、医療を中心的に担っていくつもりです。またこれらの施設が皆さんの将来の医師としての活躍の場にもなります。

次は大変大きなトピックスですが、いよいよ待望の新学舎のオープンが1年後に迫っています。枚方病院の真横で毎日工事のつち音が響いており、すでに7階部分まで建ち上がり、6月には13階までの全体の躯体が出来上がります。そして本年中に実質的に竣工し、来年4月にオープンします。この新学舎は交通至便に加え、淀川と天野川に囲まれた極めて環境の良い場所に建てられます。また医学生のために現在考えられる最高の諸設備を備え、真の6年一貫教育が行えます。この完成により本学の教育、研究環境は飛躍的に向上します。新入生の皆さんはこの牧野学舎で1年間を過ごし、2年から新学舎に移ります。言い換えますと、皆さんは本学の発祥の地であり、伝統あるここ牧野学舎を最後に使う記念すべき学年となります。古いことを学んで、新しいことにも通ずる、いわゆる「温故知新」を地でいく学年になるわけです。また、この講堂で行われる入学式は今年が最後になります。

さて、この入学を機に、皆さんに言っておきたいこ



告辞を述べる山下学長

とが2点あります。

皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。これからの6年間は長いようで短いものです。いかにこの期間を有意義に過ごすか、このことが皆さんの医師としての将来を決定するといっても過言ではありません。

まず第1は、大学は学問をするところであり、とくに将来人の命を預かる医師を目指す皆さんには改めて「学問のすすめ」という言葉を贈ります。全国共通したことですが、最近各大学で医学生の学力低下が心配されています。ゆとり教育や医学部定員増がその一因とされています。では、どのように勉強し、学力を上げれば良いのでしょうか。本学の学風は「自由・自律・自学」と謳っています。最近、残念なことにこの意味を少し履き違えている学生が見られます。もし極端に履き違えれば、どんな服装や行動・態度をとっても自由、自律しているので親や先生の言うことを聞かなくても良い、自分で勉強するから授業や実習に出なくても良い、ということになってしまいます。とんでもない誤解です。本当の「自由」は周囲の人々を思いやり、責任ある態度を貫くといったきちんとした規律の中にある初めての「自由」です。自分で考え、自分で判断し、自分で実行し、かつ自分の行動を規制することが真の「自律」です。また今までの受身の勉強ではなく、自分が学びたいことを自ら能動的に学ぶのが大学での学習であり、これが「自学」なのです。この意味を何度も考えてください。そうすれば自ずとこれからの勉強の仕方が見えてきます。有名な論語は「学ぶ」ことから説き起こす書で、次の言葉から始まります。子曰く「学びて時に之を習う 亦た説ばしからずや」と。普通、勉強とか学習というと、嫌だなあという思いが先行しがちですが、孔子は、学んでそれをまた復習すると、理解が

深まっていくのが自分でもわかるので楽しくなると言っています。本学の学風を正しく理解しながら、学習することは楽しいことだという心境に少しでも近づいてください。

第2点目は「絆」についてです。この6年間は皆さんの長い人生の中で唯一自分の時間を「自由」かつ「有効」に使うことができる期間でもあります。したがって、この時期は学問のみでなく、皆さんが持っている才能や個性を見出し、それに磨きをかける絶好のチャンスです。さらに近い将来、皆さんが医師になると、患者さんや他の医療従事者とのコミュニケーション、すなわち「絆」が大切になります。奇しくも東日本大震災は、社会は人の絆で動くことを再認識させてくれました。したがって、今年の入学試験の小論文のタイトルを「医療における絆」としました。皆さんは十分に考えてくれたと思います。多くの友人と素晴らしい人間関係を築き、優れた医療人になるための基礎を是非作ってください。その1つの手段がクラブ活動です。クラブ活動で体を鍛え、趣味を伸ばし、同級生との横の絆と、先輩、後輩との縦の絆を深めてください。ただし、勉強に打ち込む時間とクラブ活動に熱中する時間をきちんと使い分け両立させてください。

関西医科大学は伝統があり、バランスのとれた良い大学です。また今後大いに変革し、飛躍する大学でもあります。したがって、皆さんは本当に良い大学に入学されたと、先輩の1人としても自信を持って言えます。選ばれた皆さんは関西医科大学を、そして日本の医学を背負ってくれるものと信じます。皆さんを心から歓迎し、ご活躍を期待いたします。

本日は「学問のすすめ」と「絆」の2つの言葉を贈りました。皆さんが健康に留意され、関西医大人として誇りを持って、実り多い学生生活を送られますよう祈り、私の告辞といたします。本日はおめでとうございます。

平成24年度 医学部新入生一覧

平成24年度入学者データ

平成24年度入学者の出身地や高校卒業後の年数などのデータを紹介します。

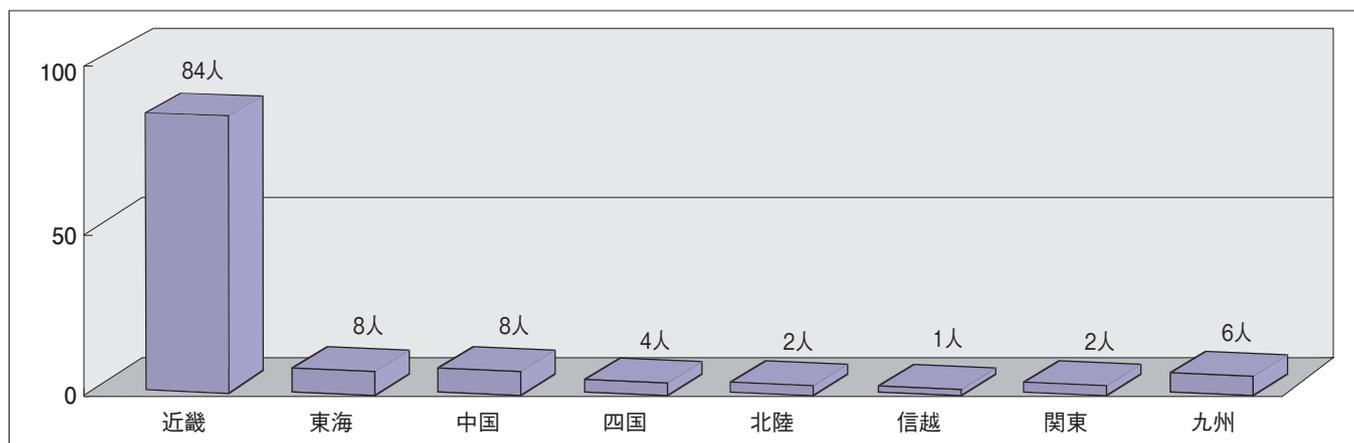
◆過去5年間の男女別・高校卒業後年数別入学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	男子	女子								
現 役	16	12	7	22	16	15	12	14	8	13
高 卒 後 1 年	20	10	26	12	21	17	16	11	18	12
高 卒 後 2 年	16	5	12	10	17	8	19	6	14	11
高 卒 後 3 年	8	2	11	2	10	1	13	3	8	3
高 卒 後 4 年 以上	10	4	10	3	7	1	16	4	22	6
計	70	33	66	49	71	42	76	38	70	45
	103人		115人		113人		114人		115人	

◆平成24年度入学者近畿の府県別一覧

府県名	入学者数
大阪府	43
京都府	13
兵庫県	12
奈良県	9
和歌山県	4
滋賀県	3

◆平成24年度入学者の地域別構成人数（全国）



大学院入学宣誓式を挙行

平成24年度の大学院入学宣誓式が4月9日(月)午後3時から、専門部学舎5階大会議室にて挙行され、27名が入学しました。式典では山下敏夫学長が大学院生活での活躍に向けて激励し、大学院教務部長の中邨智之教授(薬理学)が研究する上でのアドバイスを贈りました。



山下学長に宣誓書を手渡す大学院生代表

法 人

◆1～4月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月24日	平成22,23年度入職職員フォローアップ研修	専門部学舎
3月15日	地域医療連携フォーラム	附属枚方病院
4月1日	天満橋総合クリニック開院	天満橋総合クリニック

日程	行事名	場 所
4月2日	新入職員入職式	専門部学舎他
4月4日	新入職員集合研修	専門部学舎

4月から「関西医科大学天満橋総合クリニック」開院 本学とOMMメディカルセンターが経営統合して再スタート

平成24年4月1日より、財団医療法人大阪マーチャンダイズ・マート・メディカルセンター(OMMメディカルセンター)は本学と経営統合し「関西医科大学天満橋総合クリニック」となりました。今後は本学附属病院や健康科学センターとの連携を強め、高度先進医療へのかけ橋となるとともに、病気の予防、早期発見から総合外来診療まで一貫した、心のこもった医療を地域の皆様に提供します。



天満橋総合クリニックはOMMビル3階です

＜関西医科大学天満橋総合クリニックの診療部門＞

■ 総合健診センター部門

人間ドック、各種健診、産業医業務

■ 総合外来部門

内科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、婦人科、放射線科

■ 場所 大阪市中央区大手前1丁目7-31(OMMビル3階)京阪、大阪市営地下鉄「天満橋駅」からすぐ
詳細は天満橋総合クリニックWebサイトをご覧ください。

<http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/index.html>

東邦大学 小山信彌教授を招聘

診療情報とDPCに関する講演会開催



熱弁を振るわれる小山教授

「診療情報とDPCに関する講演会」が4月7日(土)午後3時から、附属枚方病院13階講堂で開かれ、厚生労働省診療報酬調査専門組織DPC評価分科会分科会長で、東邦大学医学部外科学講座心臓血管外科教授の小山信彌氏に約1時間、ご講演いただきました。演題は「24年度診療報酬改定とDPC/PDPS-これからの医療の方向性-」で、山下敏夫理事長・学長はじめ、教職員185名が聴講しました。

小山教授は「平成24年度の診療報酬改定」「DPC/PDPSと改定」「これからの方向性」と大きく3つのテーマについて、厚生労働省の見解や見通しなどについてわかりやすく解説されました。最後は「目の前の患者さんのために、できる最適の医療を行う努力が大切。それが病院の評価につながります」と強調して、締めくくられました。

法人

第3回地域医療連携フォーラム開催

「第3回地域医療連携フォーラム」が3月15日(木)午後5時30分から、附属枚方病院13階合同カンファレンスルームで開催され、地域の医療関係者ら24名が参加しました。本学の附属3病院の地域医療連携部(室)が担当となり、「アレルギー診療を極める」をテーマに、内科学第一講座(附属枚方病院血液呼吸器膠原病感染症内科)の宮良高維教授が「内科領域で注意すべきアレルギーの問題」、同講座(附属枚方病院血液呼吸器膠原病内科)の杉本博是助教が「気管支喘息と呼気NO」、小児科学講座(附属滝井病院小児科)の谷内昇一郎准教授が「食べて治す食物アレルギー」とそれぞれ題して講演しました。フォーラムでは参加者から質問が相次ぎ、さらに講演終了後は病院内のレストランのぞみで情報交換会も行われるなど、活発な交流が繰り広げられました。



「アレルギー診療について」をテーマに開催されたフォーラム
(写真は宮良教授の講演の様子)

平成24年度一般職員180名が入職



合同研修で山下理事長・学長の講話を真剣に聞く新入職員たち

4月2日(月)に附属3病院で一般職新規入職者180名(看護職161名、医療技術職11名、事務職8名)の入職式が挙行されました。配属の内訳は大学事務局1名、物流センター1名、附属枚方病院113名、附属滝井病院56名、香里病院9名で、新入職員たちの社会人生活が始まりました。また4月4日(水)には一般職合同の新入職者集合研修が実施され、冒頭、山下敏夫理事長・学長が「挨拶」の意義や重要性を強調、さらに「プライドを持って働き、本学を愛してください」との激励がありました。続いて徳永力雄常務理事による講話が行われたほか、「組織人として必要な意識を考える」をテーマにした講義などがありました。

新入職員フォローアップ研修会実施

平成22、23年度入職の職員(事務職)を対象とした「フォローアップ研修会」が1月24日(火)に開催されました。この研修会は基礎教育フォローアップ(勤務の振り返り)と自己啓発の動機付けを行い、職業的自立とキャリア自立を促すことを目的とし、平成22年4月1日から平成23年4月1日までの入職者28名が参加しました。研修会では神崎秀陽総務担当理事、岩坂壽二附属滝井病院長、及び竹林俊雄総務部長の講話や、臨床心理士の内藤ゆみ先生のお話を挟みながら「現在、および2年後、自分達は周囲からどのような役割を求められているか」などのテーマで、活発なグループ討論や発表が行われました。



グループワークなどを行った研修の様子

法 人

退 任 の 挨拶

ありがとうございました、今後もよろしく申し上げます

前内科学第二講座 教授 岩坂 壽二



いく度の季節が通り過ぎました。桜の滝井、熱砂のような枚方、紅葉の地方都市、雪の舞う大阪、学会では各地のホールを歩くだけで、日本国中どこも同じといった感じでした。病院では、年1~2例の心筋梗塞に有線でモニターを詰所に設置し、急造チームで観察・治療を行いました。季節の意味も忘れかけるほどでした。

CCUを開設せよと命を受けたのは34歳のころでした。ですから、いつ教授になって何か変わったかと云うとあまり判然としないのが正直な気持ちです。25年前くらいまでは、日本循環器学会の発表演題数は本講座で許されているのは1~2題でした。何とか増やして他大学に認知させたいと願いました。外国学会もはじめは国際学会からスタートし、私が指導医であった帰国子女で英語が母国語に近い現高知大学病態検査学講座杉浦哲朗教授の力を借りて、嫌がる医局員に発表させました。4~5年後には日本循環器学会は20題超え、米国の国内学会、欧州心臓病学会に発表出来るようになりました。そのころから米国留学をする者が増えてきました。数年前からは何も言うことがなくなりました。

CCUを中心とした心臓救急を主として担当した私は3度のCCU拡大が出来、神島宏病院教授が指導する冠動脈造影・冠動脈カテーテル治療件数は2500件を超え、大学病院では2番目に多い例数まで増加しました。

内科学第2講座は循環器病のほかに、血液透析も含めた高血圧・腎臓病、糖尿病を主とした代謝病、西川光重教授を

擁して我が国でも屈指の甲状腺疾患を中心とした内分泌病、木村穰教授が指揮する健康科学センターを担当する拡がりのある臨床講座です。恩師塩田登志也教授、甲状腺疾患の権威であった稲田満夫教授など先輩諸氏の努力があり、消化器内科の独立後に現在の形が作られ、発展しました。広い領域を担当していますが、動脈硬化の危険因子、進展抑止にいずれの担当領域も大きく関与し、心・血管にとって合目的な構成となっています。これら各領域の専門家とそのグループは私一人の考えで臨床・研究をするのではなく、自由闊達に互いの成果をオープンにして、どの領域が次に何を成すべきかをともに考えられるように配慮することが私の役目であると考えて来ました。

常に患者さんから生じる疑問を研究に反映する臨床研究をメインとして医局の先生方に提案してきました。回診では無線聴診器を使い、聴診器の使い方、圧・容量負荷を示す心音をしつこい程伝えました。問診と心電図、聴診器さえあればほぼ診断が出来る心臓病の真髄をわかって欲しいというのが、私の教育の基本でした。

今後も成長し続ける第2内科と信じています。

関西医科大学で学んだ半世紀に及ぶ歳月は少しばかりの苦しさもありましたが、豊かで、生き生きとした流れでした。この駄文をお読みいただいているすべての人達に伝えきれない感謝のこころを残して、終わります。

これからも理事長を補佐し、常務理事・附属滝井病院院長として、関西医科大学が堂々たる、屈指の医科大学になるため精一杯努力します。重ねてありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

関西医科大学放射線科学講座「教授退任の挨拶」

前放射線科学講座 教授 澤田 敏



平成24年3月末をもって放射線科学講座主任教授を退任いたしました。これまで大過なく主任教授の職責を全う出来たことは、教室員を始めとする皆様方の御支援、ご厚情の賜物であると感謝するとともに、この紙面をお借りして再度御礼を申し上げます。

私は昭和45年に本学を卒業し、学生時代に難解であった放射線診断学を少しでもマスターしてから外科医になろうと志し、放射線科に入局しましたが、表題の通り放射線科医として定年退任を迎えることになりました。今となっては叶わぬ夢ですが、これまで外科医になっておれば、と思うことが無かった訳ではありません。しかし、放射線科医として、これまで走り続けてきた道を振り返ってみると、楽しくて誇らしげな思い出が泉の如く湧き出てきますし、とても幸せな心境です。不思議と数多くあった辛い出来事は思い出せません。

これまで、放射線科医として最も楽しかった出来事は、と問われれば、まず、第一に鳥取大学での助教授時代です。多くの教室員とは毎日寝食を忘れて、楽しく苦しい研究生を送り、多くの研究成果を自ら世界に向けて発信出来た

ことです。次いで琉球大学放射線科の主任教授に選任されたこと、3番目はスウェーデンのウプサラ大学放射線科で医師として勤務できたことやテキサスMDアンダーソン病院での海外留学生活です。無論、平成10年に関西医科大学で教授職に選任していただき、愛する母校に戻る事が出来た事を一番に挙げなければなりません。

母校の放射線科では教授職として14年間勤務いたしました。私はこれまでの様々な勤務地経験を踏まえて、私の理想とする教室運営の理念を貫いてきたつもりです。このため、若い医局員には少々辛口であったかも知れません。長期的な成果を見ていただきたいと思います。

幸いにも後任教授は本学の准教授が選任されたので、よき伝統は継承していただけるものと思っております。否、老害は百害あって一利なしであるが故、新任教授には「旧来の陋習を破り、斬新な気風」を教室に吹き込んでいただきたいと思っております。

定年とは自ら望んでも、他から請われても席に座り続けることが出来ないものであり、現在の心境は「老兵は静かに去るのみ」です。

最後に私事ながら、今後は「本学の常務理事として、最後の力を振り絞って滅私奉公せよ」とのことですので、宜しくお願い致します。

退任にあたり

前物理学教室 教授 木原 裕



私は物理学の中でも、生物物理学を専攻してきました。生命現象を解明するのが一生のテーマです。大学院を出てからすぐに、自治医科大学に講師として赴任し、自治医科大学看護短期大学教授を経て、1993年8月1日に関西医科大学に教授として赴任しました。爾後18年8か月、関西医大にはお世話になりました。医科大学では、物理学を専攻している者が少ないこともあり、在任中は放射線をはじめ、医学と物理学の間の領域の事柄については、なるべく関心を持つように努めてきました。3年生の終わりにある分属実習では、学生の興味に合わせたテーマを選び、結果的に私も多くのことを学ぶことができました。心磁計や、超偏極キセノンを使ったMRIによる肺のCOPD診断など、私もそれまで知らなかったことを学生と一緒に学ぶことができました。

在職中、心掛けてきたことが二つあります。

一つ目は、医学の周辺を充実させることです。日本の医学部は欧米に比べ、研究スタッフの数が少ないのが現状です。これを補うのは、大学の外の研究機関と積極的な交流を図ることだと思います。数年前に、旧知の立命館大学・谷口教授からお誘いを受け、両大学で生命科学を推進するプロジェクトをいろいろ考えてきました。その成果は、共同で「ヒトの生命科学」を推進するプレミアム大学院を創る構想にまとめ上げてきました。私たちが提唱したものが、そのまますんなりと実現するかどうかは予断を許しません

が、単科の医科大学が欧米の最先端の研究機関と伍して研究を進めていくには、このようなチーム研究が大切であると考えています。

二つ目は、関西医大を地域医療センターに、ということです。大阪府の北東部は、関西医大と大阪医大の他には府立病院もなく、実際には多くの本学卒業生がこの地域の医療を担っています。私は、この大阪府北東部の地域医療のすべてに両大学が指導的役割を今以上に果たしていくことが大切であると思ってきました。幸い両大学では、文科省戦略連携の援助で立派なシミュレーション機器を備えることもできました。今後は、まず大学の中に地域医療学の拠点を作ることで、その指導の下に、この地域の医療機関に種々のレベルでの教育・研究ツールの提供（文献やEBMデータベースへのアクセスなど）、臨床指導医、薬剤師を含む種々の職種のコメディカルの方々への教育講習プログラムの開発と実践、同窓会との協力など、多くのことができることが考えられます。研修医の統合研修プログラムを作ることも面白い課題だと思います。

私は40年間、主に医学部の1年生にずっと物理学を教えてきました。物理学は医療の現場ですぐに役立つものではないかもしれませんが、論理的思考能力の涵養には非常に重要な分野であり、将来の医療を切り拓く大きな可能性も秘めています。私が教えた学生たちが、その魅力に少しでも気づくときがあれば、これに勝る喜びはありません。大切な教え子と過ごした牧野での日々を誇りに思うとともに、本学の益々の発展を祈念致します。

枚方新学舎建設工事の進捗状況と今後の予定

枚方キャンパス新学舎建屋の全体像や各部門の配置図の概要はこれまで4回にわたり、シリーズでこの広報紙に紹介されております。今回は少し趣を変えて、現時点(5月下旬)での工事進捗状況を中心に報告します。これまで一部4階建の低層棟と8階建ての中層棟はコンクリートの打設がすでに完了し、その全容を現しました。一番長く工期を要する13階建ての高層棟は11階の天井部分までコンクリートの打設が完了しています。

また、隣接する附属枚方病院との連絡橋であるスカイウェイも既に完成しました。これまで枚方病院内の北側に設置されていた連絡橋工事のための工所用仮設壁も撤去されています。



順調に工事が進む枚方新学舎の建設工事現場の様子=5月1日撮影

今後は6月から低層棟、7からは中層棟の足場が順次解体され、美しいタイル張りの全容の一部が姿を現します。高層棟の足場解体予定は9月に入ってからとなっておりますので、少なくとも10月には皆様に建屋外観の全体像をお披露目できると思います。

次いで、建屋の内部を見てみましょう。低層棟、中層棟は現在、間仕切り工事等が3階まで進んでいます。今後、高層棟の13階まで内装工事が完了するのは11月末の予定です。その後は竣工予定の平成25年1月末まで建屋の空調機器等の設置や試験運転が目白押しで、施設部と施設整備企画室ははてなこ舞いとなります。

一方、外溝工事は10月から12月にかけて行われ、緑に囲まれた「グリーン&エコ」の枚方学舎は実質的には本年度末に完成予定です。12月から1月末にかけては工事の完了に伴う諸官庁の立ち入り検査が行われ、当局から合格証を頂いた後、今回の工事を請け負った清水建設から本学に建屋が引き渡されます。その後、2月上旬から順次引っ越しが始まり、4月には待望の開校を迎えることとなります。

法人

就任の挨拶

内科学第二講座教授に就任して

内科学第二講座 教授 塩島 一朗



平成24年4月1日付けで関西医科大学内科学第二講座の主任教授を拝命いたしました。まずはご推薦いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます。伝統ある教室を主宰させていただくことになり、大変光栄に思います。

私は神戸市出身で、大学に入学するまで18年間神戸に住んでおりました。医学部卒業後は2年間の研修のうち東京大学第3内科に入局し、三井記念病院で3年間循環器内科のトレーニングを受けました。その後大学に戻り、ボストンに留学するまで8年間東京大学第3内科に在籍しました(最後の1年間は診療科臓器別再編成にともない正式には循環器内科の所属となりました)。ボストンには5年間おりましたが、留学中に東大時代の直属の上司であった小室一成が千葉大学循環器内科教授に就任したため、帰国時に千葉大学に赴任し、千葉で5年間過ごしました。さらに小室の大阪大学循環器内科教授就任にともなって大阪大学に移り、そこで3年間過ごした後に、本年4月より本学内科学第二講座に勤務することとなりました。

内科学第二講座は循環器・腎臓・内分泌代謝の3つの領域を担当しております。これらの疾患の多くは「生活習慣病」としてとらえることができると同時に、加齢にともなってその発症頻度が増加するいわゆる「老化関連疾患」としての側面も有しており、今後高齢化社会が進むにつれその重要性はさらに増していくものと思われます。また、「心腎連関」などの言葉からも明らかなように、3つの領域の疾

患は相互に密接な関連を持っています。各診療部門が高度で専門的な医療を提供すると同時に、生活習慣病を総合的に診療できるのが当科の強みであり、臨床および教育・人材育成の観点からこれらをさらに発展させていきたいと思っています。

研究については、私自身はこれまで「心不全の病態解明」をテーマに基礎研究および臨床研究をおこなってまいりました。また、そのような研究を進めて行く過程で、胚性幹細胞やiPS細胞を用いた心筋再生治療の研究にも携わることができました。今後は心疾患を含めた生活習慣病全体をターゲットとし、その基盤となる病態を明らかにするとともに、機能を失った臓器・組織の再生をめざした研究もおこなっていきたく考えています。

今後とも御指導、御鞭撻のほど、何卒よろしく御願ひ申し上げます。

一 略 歴

昭和61年 3月	東京大学医学部医学科	卒業
昭和61年 6月	東京大学医学部附属病院	研修医
昭和63年 6月	三井記念病院循環器内科	医員
平成 3年 6月	東京大学医学部第三内科	医員
平成 9年 3月	東京大学大学院医学系研究科博士課程	修了
平成10年10月	東京大学医学部循環器内科	助手
平成11年 8月	米国留学(タフツ大学・ボストン大学)	
平成16年 5月	千葉大学循環病態医学	助手
平成16年11月	千葉大学心血管病態解析学	助教授
平成21年 3月	大阪大学先進心血管治療学	准教授
平成22年 9月	大阪大学心血管再生医学	准教授
平成24年 4月	関西医科大学内科学第二講座	主任教授

放射線科学講座教授に就任して

放射線科学講座 教授 谷川 昇



平成24年4月1日付けで関西医科大学放射線科学講座の教授を拝命いたしました。ご推薦いただきました多くの先生方には心よりお礼を申し上げます。諸先輩方の築き上げてこられました伝統ある関西医科大学の教授を拝命いたしましたことは誠に光栄であり、その重責に身の引き締まる思いです。私は昭和60年に鳥取大学を卒業後、放射線科医として鳥取大学、琉球大学に在籍の後、平成12年1月より関西医科大学に勤務させていただいております。山陰、沖縄、大阪と風土の異なる地域での診療経験は臨床医として何物にも代えがたい財産であり、中でも関西医科大学での豊富な臨床経験は私の臨床の礎となっています。その際多くの皆様にご世話になりましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

さて、放射線科の特徴には診療における守備範囲の広さが挙げられます。そのため、枚方病院ではすでに4つの診療科、すなわち、画像診断科、核医学科、放射線治療科、および血管造影IVR科に分けられています。このように放射線科はそれぞれの診療科で業務内容は異なるため、さまざまな個性を持った医師が自分の特技を生かして働くことのできる診療科でもあります。私はこの特徴を生かして個性豊かで、かつ科学的思考能力をもった放射線科医を育成していきたいと考えています。研究面でも各領域で個性を生かしつつ、臨床研究を「後向き研究」から「前向きの研究」にシフトさせ、よりエビデンスレベルの高い研究成果を発

信するとともに、目覚ましい基礎医学の成果を臨床に還元していただくためにも基礎医学講座と連携したトランスレーショナルリサーチの遂行は放射線科学の領域におきましても喫緊の課題と考えています。私の専門領域はInterventional Radiology (IVR)、すなわち、画像ガイド下低侵襲性治療です。この領域は放射線科の中でも新しい学問領域ですが、低侵襲、低コストの特徴が時代のニーズと合致し、近年ますますその需要が増加しています。このIVRの進化形として分子イメージングを含めた新たな総合画像診断に基づき、放射線治療とも融合した新たな低侵襲治療を開発・発展させていきたいと考えています。

最後に、診療、研究、教育においてバランスのとれた放射線科学講座を築くことが関西医科大学のさらなる発展に貢献できると信じて努力を重ねる所存です。今後とも皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一 略 歴

昭和60年 3月	鳥取大学医学部卒業	
昭和60年 5月	鳥取大学医学部附属病院放射線科	研修医
昭和61年10月	鳥根県済生会江津総合病院放射線科	医師
平成 2年 9月	鳥取大学医学部放射線科	助手
平成 8年 5月	鳥取大学医学部放射線科	講師
平成 8年10月	琉球大学医学部放射線科	講師
平成11年 1月	市立堺病院放射線科	医長
平成12年 1月	関西医科大学放射線科学講座	講師
平成13年 1月	米国テキサス大学MDアンダーソン癌センター	留学
平成21年 9月	関西医科大学放射線科学講座	准教授
平成22年 4月	関西医科大学附属枚方病院	血管造影IVR科 科長
平成24年 4月	関西医科大学放射線科学講座	教授

法人

就任の挨拶

物理学教室に着任して

物理学教室 教授 影島 賢巳



4月に教養部物理学教室に着任いたしました。これまでの赴任校では物理・応用物理系や機械系の学科に所属しておりましたので、医学系で教鞭を執るのは初めての経験です。どの大学でも学生は、ある意味同じように未知の学問への潜在的な興味や夢を持ち、また新しい世界の入り口で悩みするものだと思いますが、種々の大学での経験が教育および学生指導に役立てられれば幸いです。

特に物理学という科目の教育に求められることを自分なりに考えてみますと、専門科目履修のための基礎知識としての道具的一面のほか、日常的に目にする自然現象をその根源から捉える異なった視点を持たせること、ひいては、自然の巧妙さと不思議さを感じさせること、等が挙げられると考えます。どのような学問でもそうですが、「必要だから」というだけの動機で高いレベルまで到達するのは容易ではなく、学問する面白さのようなものをどこかで感じるようにさせるのが理想的で効果的と考えますが、教養部の1年間という短い期間でどこまで可能かは、私にとっても一つの大きな挑戦ととらえております。また、副次的な教育効果として、暗記に頼った付け焼刃の学習ではなく論理的に思考する経験を持たせることや、継続的かつ蓄積的な学習姿勢をつけさせること等にも留意して教育活動を行って行きたく考えております。今大学に入学した学生がやがて職を得て活動していくであろう今後40年余りの間に、生

命科学を含めた科学技術がどのように進歩・変貌していくか、全く予測はつきません。自ら学習し続け、時代をリードしていける医学人となるための基礎を1年生の間に可能な限り植え付けていきたいと思っております。

一方、研究者としては、大学院在学中に、国内で開発研究の端緒についたばかりの走査プローブ顕微鏡、特に原子間力顕微鏡 (AFM) に興味を持って以来、装置の開発とこれを用いたナノスケール物性計測のフロンティアを追い求めるうちに、生命現象の根幹をなすソフトマターや液体の分子レベルのダイナミクスに強く惹かれ、境界領域に足を踏み入れました。AFMに限らない新しい計測手法の開発なども視野に入れて研究に取り組んでおります。こちらの方面でも新たな環境で何らかの貢献ができれば幸いです。と考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

— 略 歴 —

平成 5年 3月	東京大学大学院工学系研究科博士課程退学
平成 8年 9月	博士(工学)
平成 5年 4月	東京大学工学部教務職員
平成 7年 1月	東京大学工学部助手
平成10年 5月	アトムテクノロジー研究体他で博士研究員
平成15年 4月	福岡工業大学工学部助教授
平成16年 3月	大阪大学大学院工学研究科助教授
平成19年 4月	大阪大学大学院工学研究科准教授
平成16年10月～平成20年 3月	科学技術振興機構さきがけ研究員を兼任
平成22年 4月	東京学芸大学教育学部自然科学系准教授
平成24年 4月	関西医科大学物理学教室教授

リハビリテーション科診療教授に就任して

整形外科科学講座 診療教授 長谷 公隆



平成24年4月1日付にて、関西医科大学附属枚方病院整形外科科学講座・リハビリテーション科診療教授に就任いたしました長谷公隆と申します。飯田寛和教授のもと、本学のリハビリテーション診療の発展に貢献できるよう、力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。大学病院でのリハビリテーション診療には、急性期医療の中で患者さんの生活機能を維持・向上させるために必要な治療を展開する緊密なチーム医療と先進医療を提供する高度な専門性が求められます。これらを実現していくために、リハビリテーション診療に携わる医療スタッフの能力が効率的に融合できるような診療体制の構築に向けて努力して参りたいと存じます。

リハビリテーション医学・医療の標的は、麻痺、疼痛、切断、認知機能や心肺機能の低下などに起因する活動の制限に置かれます。運動・認知障害を扱う医学・医療には、脳神経科学、運動生理学、生体工学、社会福祉学などの多分野における技術と知識を結集させて、その治療戦略を開発する責務が課せられています。疾病によってもたらされた生活における機能的制約を最小限にできるように、運動療法や言語聴覚療法をはじめとするリハビリテーション治療において、患者さんに提供し得る診療技術を高める努力

を日々継続して行くとともに、リハビリテーション医療の地域連携を深めていきたいと存じます。また、医工学連携による共同研究を展開し、社会に還元できるような新しい診療技術を開発するべく、リハビリテーション医療に関する基礎的ならびに先進的研究を推し進めたいと存じます。加えて、リハビリテーションが医療と社会に果たす役割を、コアカリキュラムに則って本学医学部学生に教育するとともに、講義ならびに臨床実習を通じてリハビリテーション医学の専門性と最新のリハビリテーション医療技術の理解を深めてもらえるよう努力いたします。

リハビリテーション医療は多分野の諸先生との連携が必要な診療科でございます。皆様方には、より一層のご支援ご指導を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

— 略 歴 —

昭和60年 3月	慶應義塾大学医学部卒業
昭和60年 5月	慶應義塾大学医学部リハビリテーション科入局
昭和62年 5月	国立療養所村山病院出向
昭和63年 5月	国立塩原温泉病院出向
平成 1年 5月	小田原市立病院出向
平成 2年 5月	慶應義塾大学医学部助手
平成 9年 4月	カナダAlberta大学神経科学留学(平成10年3月まで)
平成12年 1月	慶應義塾大学医学部講師
平成17年 4月	同助教授
平成24年 4月	関西医科大学整形外科科学講座リハビリテーション科診療教授

大 学

◆1～4月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月7,9日	LSC講習会	附属滝井病院
1月28日、	平成24年度一般入試第1次、	インテックス大阪、
2月11日	2次試験	専門部学舎
2月4日	慈仁会特別事業委員会及び定時役員会	専門部学舎
2月18日	大学院(後期)入試	専門部学舎
2月25日	大学連携事業評価委員会	立命館大学
3月3日	OSCE共用試験	専門部学舎
3月7日	平成23年度卒業式	附属滝井病院
3月13日	教員評価優秀者表彰式	附属枚方病院

日程	行事名	場 所
3月22日	病態分子イメージングセンターキックオフ講演会	附属枚方病院
3月27日	学位記授与式	専門部学舎
4月3日	臨床実習認証式	附属枚方病院
4月5日	平成24年度入学式	教養部学舎
4月5日	慈仁会定期総会	教養部学舎
4月9日	平成24年度大学院入学宣誓式	専門部学舎
4月6～11日	新入生オリエンテーション	専門部、教養部両学舎
4月12,13日	1学年合宿研修	兵庫県淡路市

平成23年度の教員評価優秀者を表彰

教員評価委員会は、平成22年度の「教員の活動状況調査票」をもとに平成23年度教員評価優秀者30名を選定し、3月13日(火)に附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて表彰式を挙りました。優秀者には山下敏夫理事長・学長から表彰状と図書券が贈呈されました。「教員の活動状況調査票」の提出者は対象者447名全員で提出率100%を達成しました。

優秀者は下記のとおり(職位は平成23年7月調査開始時点)。



優秀者には山下理事長・学長から表彰状が手渡されました

教 授		
中邨 智之	(薬理学)	
西山 利正	(公衆衛生学)	
金子 一成	(小児科学)	
権 雅憲	(外科学)	
中谷 壽男	(救急医学科)	
准教授		
渡邊 淳	(大学情報センター)	
廣原 淳子	(内科学第三)	
高田 秀穂	(外科学)	
齊藤 幸人	(胸部心臓血管外科学)	
谷川 昇	(放射線科学)	

講 師		
宮崎 浩彰	(医療安全管理センター)	
義澤 克彦	(病理学第二)	
塚 貴司	(病理学第二)	
吉村 匡史	(精神神経科学)	
海堀 昌樹	(外科学)	
里井 壯平	(外科学)	
金田 浩由紀	(胸部心臓血管外科学)	
岩瀬 正顕	(脳神経外科学)	
和田 孝彦	(整形外科)	
小宮山 豊	(臨床検査医学)	

助 教		
中塚 隆介	(衛生学)	
安室 秀樹	(内科学第一)	
福井 寿朗	(内科学第三)	
高島 望	(神経内科学)	
大重 英行	(脳神経外科学)	
山崎 文和	(皮膚科学)	
川喜多 繁誠	(泌尿器科学)	
河本 光平	(耳鼻咽喉科学)	
米虫 敦	(放射線科学)	
齊藤 福樹	(救急医学科)	

第106回医師国家試験の結果

「第106回医師国家試験」の結果が3月19日(月)に厚生労働省から発表されました。新卒受験生101名のうち93名が合格し、合格率92.1%、既卒者は23名のうち15名が合格しました。新卒者・既卒者を合わせると124名のうち108名が合格、合格率は87.1%という結果になりました。昨年の厳しい結果を受けV字回復を試みましたが達成には至らなかったため、来年度も引き続き、国試対策委員会を中心に合格100%を目指します。

平成23年度卒業生進路 35名が本学研修

平成23年度卒業生101名の進路は、本学研修が35名となりました。このほかの内訳としては国立大学病院6名、公立大学病院10名、私立大学病院4名、市中病院37名などとなっています。

フレッシュな顔ぶれを本学でお見かけの際には、ご指導の程、よろしくお願いいたします。

慈仁会役員会および定期総会を開催

2月4日(土)午後3時30分から専門部学舎において、平成23年度後期の慈仁会特別事業委員会及び役員会が開かれました。山下敏夫学長はじめ教職員13名、慈仁会役員16名が出席し、特別事業委員会報告、平成23年度事業報告及び収支中間決算報告、平成24年度事業計画及び収支予算案、役員改選などの議案のほか、卒業記念寄付金を募集することが説明され、いずれも了承されました。

また、4月5日(木)の入学式後の午後2時40分からは、平成24年度慈仁会定期総会並びに新入生保護者懇談会が教養部学舎第1教室において開かれました。慈仁会

総会では山下学長はじめ、教職員、慈仁会・同窓会関係者、保護者ら約120名が出席し、平成23年度事業報告及び決算、平成24年度事業計画及び予算がいずれも承認されたほか、新1学年の委員の推薦、役員改選が行われました。

新役員は次の皆さんです。

監事	木村 純平(4学年)
常任委員	神部 賢一(1学年)
委員	杉浦 哲朗(1学年)
委員	山添 康(1学年)

大 学

病態分子イメージングセンターの講演とミーティング開催

「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム終了」と「病態分子イメージングセンターキックオフ」のジョイント講演会が3月22日(木)午後5時から、附属枚方病院13階講堂で開催され、滝井キャンパス1号館のセミナールームAへの同時中継も行われました。慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野栄之教授を講師に招聘し、「iPS細胞技術を用いた神経再生・疾患・創薬研究」をテーマに講演がありました。この特別講義は平成22年度採用臨床研修修了式の後に開催され、修了生をはじめ本学教員ら、2会場で合計58名が参加しました。

また、5月1日(火)午後1時から附属枚方病院13階講堂において「第1回病態分子イメージングセンターAnnual meeting」が、関係者をはじめ53名の参加のもと開催されました。伊藤誠二センター長の挨拶に続き、3つのセッションでの研究報告がありました。このミーティングはインターネットを通じて、アメリカ合衆国との双方向中継が行われました。



「Annual meeting」の冒頭、挨拶する伊藤センター長

大学連携事業評価委員会を開催

2月25日(土)午後1時15分から、立命館大学朱雀キャンパス701会議室において大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム選定事業「理工医薬融合型ライフサイエンス高度専門教育システムの創成」の2011年度大学連携事業評価委員会が開催されました。参加者は外部評価委員5名、関西医科大学の教職員7名、立命館大学の教職員23名の計35名で、飯田健夫立命館

大学副総長による開会挨拶の後、2011年度事業内容(事業概要、英語プログラム部会、生涯教育開発プログラム、FD/SD研修、講演会、情報発信、総括及び今後の展望)の成果報告および意見交換が行われ、外部評価委員より総評として、貴重な意見や助言を得ました。最後は本学の伊藤誠二副学長の閉会挨拶で終了しました。

大学院教育FD実施

3月31日(土)午後1時から、専門部学舎大会議室において大学院教育FDが開催され、山下敏夫学長、木梨達雄大学院教務部長、教員32名、大学院生2名の計36名が参加しました。山下学長の開会挨拶、兵庫医科大学先端医学研究所所長の善本知広教授による「兵庫医科大学における大学院教育・研究への取り組み」と題した講演の後、「大学院の活性化・臨床系大学院について・基礎と臨床の連携」をテーマにしたパネルディスカッションを実施し、活発な議論が交わされました。終了後、参加者には修了証が授与されました。

健康沿線トークカフェ

「健康増進と地域連携」を開催

1月14日(土)午後3時から附属枚方病院13階レストランのぞみで第3回健康沿線トークカフェ「健康増進と地域連携」(主催：産学連携知的財産統括室)を開催し、本学教職員ほか計18名の企業関係者が参加しました。冒頭、藤澤順一産学連携知的財産統括室長、今村洋二附属枚方病院院長が順に挨拶した後、大阪市立大学大学院理学研究科の飯野盛利教授、内閣府NPO法人ホース・フレンズの芦内裕美理事長、大阪産業大学人間環境学部の佐藤真治准教授の各講師から今回のテーマに応じた話題提供としてのご講演いただき、いずれの話題についても活発な意見交換が行われました。

平成24年度大学関係役職員新体制

4月1日から平成24年度の大学関係役職員体制が下記の通りスタートしました。

学長		山下 敏夫
副学長		伊藤 誠二 友田 幸一 松田 公志
主事	教養部	吉本 康明
教務部長	専門部	友田 幸一
	教養部	藤井 茂
学生部長	専門部	楠本 健司
	教養部	中川 淳
大学院医学研究科教務部長		中邨 智之
附属図書館長		西山 利正
附属生命医学研究所長		木梨 達雄
総合研究施設長		中邨 智之
実験動物飼育共同施設長		藤澤 順一
病態分子イメージングセンター長		伊藤 誠二

平成24年度クラスアドバイザー

平成24年度のクラスアドバイザーは下記の通りです。

第1学年(A)	中川 学	講 師
第1学年(B)	西垣 悦代	教 授
第2学年	赤根 敦	教 授
第2学年	吉田 学	准教授
第3学年	上野 博夫	教 授
第3学年	槇 政彦	講 師
第4学年	権 雅憲	教 授
第4学年	松井 陽一	准教授
第5学年	岡本 祐之	教 授
第5学年	爲政 大幾	准教授
第6学年	楠本 健司	教 授
第6学年	鈴木 健司	講 師

大 学

21名に学位記授与 麻醉科学講座久保助教が医学会賞受賞

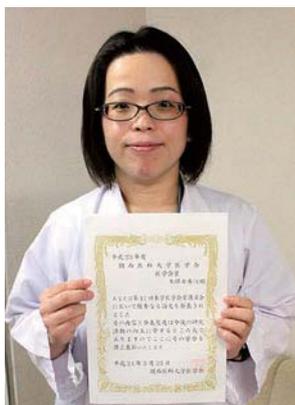
3月27日(火)午後3時30分から専門部学舎大会議室において学位記授与式が挙行政され、山下敏夫学長から21名に博士(医学)の学位記が授与されました。また同日には本学の第11回医学会賞贈呈式も開かれ、3月23日(金)の「第128回学内学術集談会」での応募口演による選考で同賞に選ばれた麻醉科学講座の久保古寿江助教が表彰されました。

麻醉薬の新たな可能性

—プロポフォールのマウスパーキンソン病モデルにおけるドパミン神経傷害に及ぼす影響に関する研究—

麻醉科学講座 久保 古寿江

久保助教



この度は医学会賞を賜り誠にありがとうございました。このような榮譽ある賞を受賞し、大変光榮に思います。今回の受賞に際しご指導ご助言のみならず、研究に没頭し継続できるよう多大な心遣いを下さいました指導医の先生方に対する感謝の念に堪えません。

私の研究テーマは、静脈麻醉薬であるプロポフォールがマウスミクログリアに与える影響とマウスパーキンソン病モデルにおけるドパミン神経傷害に及ぼすプロポフォールの影響に関するものです。近年、麻醉法の違いが手術予後に影響を与える可能性があることが示唆されています。パーキンソン病(PD)患者の麻醉導入中に不随意運動の増悪や寛解がおこることは報告

されていますが、PD症状の予後への麻醉薬の影響については知られていません。PDの病因が炎症に関連していること、手術が炎症反応を惹起すること、麻醉薬が手術侵襲ストレスに影響を与えることを考慮すれば、麻醉薬がPDの予後に影響する可能性は十分有りえます。そこで中枢神経系において炎症細胞や免疫担当細胞として重要な役割を担っているミクログリアに着目し、研究を行いました。まずプロポフォールがマウスミクログリアにおいてプロスタノイド産生抑制作用を示すかどうかを調べました。その結果、プロポフォールはマウスミクログリアのシクロオキシゲナーゼ活性を抑制し、プロスタノイド産生を抑制することが明らかになりました。次にマウスに神経毒(MPTP)を投与しPDモデルを作成し黒質緻密部を観察しました。対照群と比較してプロポフォール投与群では、ドパミン神経傷害の有意な抑制とミクログリアの活性抑制を認めました。これらの結果より慢性神経変性疾患を伴う患者の鎮静や麻醉にプロポフォールを用いることで、原疾患の炎症に対してプロポフォールが有利に作用しうることが示唆されました。

最後になりましたが、本研究のご指導を賜りました諸先生方、また審査いただいた先生方、研究にご協力下さった皆様に心より厚く御礼申し上げます。

学位授与 博士(医学)

宮本 理恵(課博第904号)平成24年3月27日

「Inhibitor of $I\kappa B$ kinase activity, BAY 11-7082, interferes with interferon regulatory factor 7 nuclear translocation and type interferon production by plasmacytoid dendritic cells」

Frederik Zefanya Notodihardjo(課博第905号)平成24年3月27日

「Bone regeneration with BMP-2 and hydroxyapatite in critical-size calvarial defects in rats」

兼松 清果(課博第906号)平成24年3月27日

「Molecular mechanisms of sulforaphane-induced growth inhibition of human breast cancer cells in vitro and in vivo」

吉川 匡宣(課博第907号)平成24年3月27日

「Increased Expression of Tight Junctions in

APRE19 Cells under Endoplasmic Reticulum Stress」

眞鍋 憲市(課博第908号)平成24年3月27日

「Urinary L-FABP level as a predictive biomarker of contrast-induced acute kidney injury」

島野 卓史(課博第909号)平成24年3月27日

「Histological and Physiological Investigation of Channelrhodopsin-2 and Halorhodopsin in the Dorsal Cochlear Nucleus」

万木 孝富(課博第910号)平成24年3月27日

「Accumulation of visceral fat in maintenance hemodialysis patients」

川村 梨那子(課博第911号)平成24年3月27日

「Combined Treatment of Large Hepatocellular Carcinoma with Transcatheter Arterial Chemoembolization and Percutaneous Ethanol Injection with a Multipronged Needle : Experimental and Clinical Investigation」

大 学

- 岡崎 徹(課博第912号)平成24年3月27日
 「Reversal of inducible nitric oxide synthase uncoupling unmasks tolerance to ischemia / reperfusion injury in the diabetic rat heart」
- 土手 絹子(課博第913号)平成24年3月27日
 「Obesity as an Independent Risk for Left Ventricular Diastolic Dysfunction in 692 Japanese Patients」
- 野村 基雄(課博第914号)平成24年3月27日
 「Recursive partitioning analysis for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy」
- 山科 雅央(課博第915号)平成24年3月27日
 「Comparative study on experimental autoimmune pancreatitis and its extrapancreatic involvement in mice」
- 大岡 久司(課博第916号)平成24年3月27日
 「Characterization of side population(SP) cells in murine cochlear nucleus」
- 城 ひろみ(論博第686号)平成24年3月27日
 「Inhibition of Nitric Oxide Synthase Uncoupling by Sepiapterin Improves Left Ventricular Function in Streptozotocin-induced Diabetic Mice」
- 岡 淳寿(論博第687号)平成24年3月27日
 「Determination of p53-mediated Transactivational

- Ability in Radiation-treated Cervical Cancer」
- 朴 幸男(論博第688号)平成24年3月27日
 「Efficacy of intracoronary administration of a short-acting β - blocker landiolol during reperfusion in pigs」
- 芦谷 道子(論博第689号)平成24年3月27日
 「Clinical features of functional hearing loss with inattention problem in Japanese children」
- 谷埜 予士次(論博第690号)平成24年3月27日
 「Reach distance and movement strategy patterns during the functional reach test of psychiatric patients」
- 新庄 正路(論博第691号)平成24年3月27日
 「Denaturant-induced helix-coil transition of oligopeptides : theoretical and equilibrium studies of short oligopeptides C17 and AK16」
- 藤高 啓祐(論博第692号)平成24年3月27日
 「Comparison of metabolic profile and adiponectin level with pioglitazone versus voglibose in patients with type-2 diabetes mellitus associated with metabolic syndrome」
- 川股 聖二(論博第693号)平成24年3月27日
 「Oncogenic Smad3 signaling induced by chronic inflammation is an early event in ulcerative colitis-associated carcinogenesis」

大 学

1学年学生生活スタート

オリエンテーション、合宿研修実施

1学年のオリエンテーションが4月6日(金)から4日間、専門部と教養部の両学舎において実施され、学生生活の第一歩を踏み出しました。本学の授業や学生生活に関する説明のほか、各教員による講話やクラスアドバイザーの挨拶などがありました。また、4月12日(木)、13日(金)には兵庫県淡路島において1泊2日の合宿研修が行われ「目指す医師像と、この一年間の過ごし方」をテーマにしたディスカッションと課題発表に

ディスカッションする学生たち



加えて、レクリエーションを楽しむなど、仲間同士の交流を深めました。

充実した臨床実習に向けて誓い

5学年臨床実習生認証式

新5学年98名の臨床実習生認証式が4月3日(火)午前9時から、附属枚方病院13階講堂において執り行われ、山下敏夫学長をはじめとした教職員7名が出席しました。友田幸一専門部教務部長の挨拶の後、山下敏夫学長から学生一人ひとりに「臨床実習許可証」が手渡され、続いて山下学長、今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長から充実した臨床実習に向けた激励の言葉と訓示が贈られ、学生代表の永田さんが誓いの言葉を述べました。



充実した実習に向けて士気を高める学生たち

大 学

平成24年度 教務日程表

1学年	
4/5(木)	入学式
4/6(金)・9(月)	新入生オリエンテーション(専門部)
4/10(火)・11(水)	新入生オリエンテーション(教養部)
4/12(木)・13(金)	合宿研修
4/16(月)	前期開講
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
6/30(土)	創立記念日
7/19(木)	前期終講
7/20(金)~8/31(金)	夏季休業
9/1(土)~11(火)	前期試験
9/12(水)	後期開講
11/2(金)~4(日)	大学祭
12/12(水)	後期終講
12/13(木)~12/21(金)	後期試験
12/25(火)~1/4(金)	冬季休業
1/7(月)	講義再開
1/17(木)~24(木)	再試験
2/1(金)	基礎医学講義開始
3/6(水)	卒業式
3/15(金)	講義終了

2学年	
4/4(水)	新2学年ガイダンス
4/9(月)	1学期開講
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
5/15(火)	解剖体追悼法要
5/23(水)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/9(月)~13(金)	試験期間
7/13(金)	1学期終講
7/17(火)~8/17(金)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
11/2(金)~4(日)	大学祭
12/14(金)	2学期終講
12/17(月)~1/4(金)	冬季休業
1/7(月)	3学期開講
2/12(火)~3/15(金)	試験期間
3/6(水)	卒業式
3/15(金)	3学期終講

3学年	
4/7(土)	新3学年ガイダンス
4/9(月)	1学期開講
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
5/15(火)	解剖体追悼法要
5/24(木)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/9(月)~13(金)	試験期間
7/21(土)	1学期終講
7/23(月)~8/17(金)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
11/2(金)~4(日)	大学祭
12/14(金)	2学期終講
12/17(月)~1/4(金)	冬季休業
1/7(月)	3学期開講
1/28(月)~2/15(金)	試験期間
2/18(月)~3/15(金)	分属実習
3/6(水)	卒業式
3/15(金)	3学期終講

4学年	
4/7(土)	新4学年ガイダンス
4/9(月)	1学期開講
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
5/25(金)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/17(火)~21(土)	試験期間
7/21(土)	1学期終講
7/23(月)~8/17(金)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
10/29(月)~11/1(木)	試験期間
11/2(金)~4(日)	大学祭
12/10(月)~14(金)	試験期間
12/14(金)	2学期終講
12/17(月)~1/4(金)	冬季休業
1/7(月)	3学期開講
2/7(木)・8(金)	CBT共用試験
3/2(土)	OSCE共用試験
3/6(水)	卒業式
3/8(金)	3学期終講

5学年	
4/3(火)	新5学年臨床実習生認証式・ガイダンス
4/9(月)	1学期開講
4/9(月)~3/2(土)	臨床実習
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
5/24(木)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/27(金)	1学期終講
7/30(月)~8/17(金)	夏季休業
8/20(月)	2学期開講
12/21(金)	2学期終講
12/25(火)~1/4(金)	冬季休業
1/7(月)	3学期開講
3/4(月)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/4(月)	3学期終講
3/6(水)	卒業式

6学年	
3/31(土)	新6学年ガイダンス
4/2(月)	1学期開講
4/2(月)~6/29(金)	臨床実習
5/1(火)~4(金)	休講(5月連休)
5/25(金)	学生定期健康診断
6/30(土)	創立記念日
7/21(土)	Advanced OSCE
7/21(土)	1学期終講
7/23(月)~8/24(金)	夏季休業
8/27(月)	2学期開講
8/27(月)~11/6(火)	卒業試験
11/7(水)~9(金)	総合試験
11/9(金)	2学期終講
11/12(月)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/6(水)	卒業式

注)休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあるので、注意してください。

大 学

平成24年度科学研究費補助金交付内定者(代表者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究 新規	医化学	矢尾 育子	講 師	質量分析イメージングによる脳内環境の可視化	4,700,000	1,410,000
新学術領域研究 継続	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教 授	細胞接着の時空間制御による免疫動態調節機構	27,600,000	8,280,000
	分子遺伝学部門	片貝 智哉	講 師	T細胞のリンパ節間質高速遊走における細胞内動態と組織微小環境	4,500,000	1,350,000
	生理学第二	中村 加枝	教 授	嫌悪刺激回避行動の学習機構	3,700,000	1,110,000
基盤研究(B) 継続	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教 授	哺乳類Hippo経路によるインテグリン依存性細胞増殖と機能の制御	4,200,000	1,260,000
	医化学	伊藤 誠二	教 授	慢性疼痛における反応の場脊髄での細胞内情報伝達と細胞間生理活性物質の時空間的解析	3,600,000	1,080,000
	内科学第三	松崎 恒一	准教授	リン酸化Smadを介する肝発癌機構の遺伝子改変マウスを用いた解明	2,100,000	630,000
	放射線科学	播磨 洋子	准教授	分子生物学的手法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療抵抗性機構の解明とその克服	4,100,000	1,230,000
	救急医学	中谷 壽男	教 授	脊髄損傷に対する新たな治療法の確立:培養自家骨髄間質細胞の髄液内投与	3,100,000	930,000
基盤研究(B)海外 新規	内科学第二	塚口 裕康	講 師	難治性腎疾患克服を目指す小児腎糸球体硬化症のアジア国際共同調査	2,700,000	810,000
	公衆衛生学	西山 利正	教 授	マラウィ共和国におけるビルハルツ住血吸虫症の実相調査-集団治療とその効果的展開	3,800,000	1,140,000
基盤研究(C) 継続	解剖学第一	森 徹自	講 師	NG2細胞の成獣脳ジェノサイドによるin vivo機能解析	900,000	270,000
	医学教育センター	菅谷 泰行	准教授	高齢者が語るライフストーリーコーパスの作成と日独対照研究	100,000	30,000
	心理学	西垣 悦代	教 授	「健康増進ゲーム」を用いた食生活改善プログラムの開発と効果	900,000	270,000
	心療内科学	神原 憲治	講 師	機能性身体症候群における精神生理学的評価と心理的評価を用いた病態の検討	600,000	180,000
	生理学第一	岡田 誠剛	講 師	K+チャネルの分解による発現量制御	700,000	210,000
	生体情報部門	松田 達志	准教授	樹状細胞mTOR経路を標的とした免疫制御の分子基盤	1,000,000	300,000
	臨床検査医学	榊田 緑	講 師	不安定ブランク検出法の確立	700,000	210,000
	内科学第一	宮地 理彦	講 師	Th2細胞におけるBam32の発現及びBam32依存性TCR signalの解析	800,000	240,000
	小児科学	金子 一成	教 授	モデルマウスを用いた遺伝性腎炎に対する画期的腎再生法の研究	700,000	210,000
	精神神経科学	吉村 匡史	講 師	統合失調症患者に対する定量薬物脳波学的研究	700,000	210,000
	放射線科学	河 相吉	准教授	標識アネキシンVを用いた放射線誘導アポトーシスとFDG腫瘍糖代謝能の基礎的検討	800,000	240,000

大 学

(単位：円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	放射線科学	狩谷 秀治	講 師	マイクロバブルジェネレータカテーテルを用いた高密度炭酸ガスマイクロバブル血管造影	1,200,000	360,000
	麻酔科学	稲田 武文	講 師	プロポフォールの活性化ミクログリア依存性神経細胞傷害に及ぼす影響	500,000	150,000
	泌尿器科学	松田 公志	教 授	腹腔鏡手術における鉗子先端作用力計測と剥離技術分析に関する研究	400,000	120,000
	解剖学第一	北宅弘太郎	非常勤講師	ナチュラルキラー細胞遊走過程における子宮微小血管のインターロイキン15発現調整	300,000	90,000
	病理学第二	義澤 克彦	講 師	MNU誘発網膜色素変性症動物モデルにおけるオートファジーの関与とその分子制御	500,000	150,000
若手研究(A) 継続	医化学	矢尾 育子	講 師	ユビキチンリガーゼSCRAPPERによる細胞内輸送制御機構の解明	6,800,000	2,040,000
若手研究(B) 継続	形成外科学	覚道奈津子	助 教	幹細胞を用いた脂肪組織再生と血管新生における分子機構の解明	900,000	270,000
	内科学第三	福井 寿朗	講 師	消化管粘膜における上皮幹細胞マーカーの同定、粘膜再生・発癌メカニズムの解析	700,000	210,000
	放射線科学	八木 理絵	助 教	4点連結式経皮的管腔臓器バイパス術の開発	1,500,000	450,000
	救急医学	齊藤 福樹	助 教	細胞死抑制ペプチド添加人工コラーゲンによる脊髄再生への試み	900,000	270,000

(単位：円)

研究種目等	内定件数	交付内定額 (直接経費)	交付内定額 (間接経費)
新学術領域研究	4	40,500,000	12,150,000
基盤研究 (B)	7	23,600,000	7,080,000
基盤研究 (C)	16	10,800,000	3,240,000
若手研究 (A)	1	6,800,000	2,040,000
若手研究 (B)	4	4,000,000	1,200,000
合 計	32	85,700,000	25,710,000

大 学

平成24年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)交付内定者(代表者)一覧(日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 新規	解剖学第一	高森 康晴	助 教	核ラミナ構築タンパク質の変異で誘導される神経変性疾患の発症機序	900,000	270,000
	解剖学第一	山田 久夫	教 授	海馬ニューロン新生に対する身体運動制御の定量的評価	1,300,000	390,000
	物理学	楠本邦子 (竹本邦子)	准教授	軟X線マイクロCTによるシアノバクテリア生体高分子可視化による有機物量評価	1,300,000	390,000
	微生物学	藤澤 順一	教 授	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いたATL発症過程特異的細胞変異の同定	1,800,000	540,000
	医化学	松村 伸治	講 師	神経障害性疼痛維持機構の構造的および機能的変化の同時イメージング	1,900,000	570,000
	医化学	西田 和彦	助 教	新規遺伝子改変マウスを用いた疼痛神経回路網の蛍光可視化システムの開発	2,100,000	630,000
	内科学第三	内田 一茂	講 師	1型自己免疫性膵炎におけるIgG4産生機序と自然免疫の役割	1,400,000	420,000
	内科学第三	西尾 彰功	准教授	膵炎発症における小胞体ストレスの関与と新規治療法の検討	1,500,000	450,000
	心療内科学	小崎 篤志	講 師	動脈硬化性血管障害へのS100A12タンパク質の関与とその機序の解明	1,000,000	300,000
	微生物学	竹之内徳博	准教授	樹状細胞を介したHTLV-1感染モデルの構築と薬剤スクリーニングへの応用	1,600,000	480,000
	衛生学	藺田 精昭	教 授	ヒト未分化CD34抗原陰性造血幹細胞の特性と分化経路・階層制の解明	1,600,000	480,000
	病理学第一	神田 晃	講 師	骨髄移植細胞と胸腺上皮細胞間のcell fusionと免疫寛容	1,100,000	330,000
	内科学第一	伊藤 量基	准教授	線溶系物質による樹状細胞機能の制御:炎症性疾患に向けた新たな治療コンセプトの提案	2,100,000	630,000
	小児科学	高屋 淳二	講 師	胎児の栄養環境と代謝エピジェネティクス制御	2,200,000	660,000
	病理学第二	上原 範久	講 師	HDAC・PARP制御を介した合成致死誘導の分子基盤と乳癌治療へのアプローチ	1,400,000	420,000
	外科学	権 雅憲	教 授	増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた根治不能肝腫瘍に対する新治療法の開発研究	1,500,000	450,000
	病理学第二	螺良 愛郎	教 授	アラキドン酸によるMNU誘発網膜色素変性症動物モデルの病態制御とその分子機構	2,400,000	720,000
	形成外科学	楠本 健司	教 授	電気穿孔法によるサイトカインの経皮、経潰瘍底導入効果についての実験的研究	1,400,000	420,000
基盤研究(C) 継続	衛生学	河野比良夫	講 師	食事制限による生体内酸化ストレス低減:機能的潜在性の再獲得	1,300,000	390,000
	病理部	保坂 直樹	講 師	多色細胞系譜追跡法による胸腺上皮細胞ネットワーク構築過程の解析	1,200,000	360,000
	公衆衛生学	三宅 眞理	講 師	介護労働の軽減を目的とした介護プログラムの開発	600,000	180,000
	大学情報センター	渡邊 淳	准教授	診療チーム意思決定のバスケット分析とAPMLを用いた道筋解析と行動予測	500,000	150,000

大 学

(単位：円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
基盤研究(C) 継続	内科学第一	野村 昌作	教授	血管内皮細胞由来マイクロパーティクルによるDIC病態早期診断法の研究	1,200,000	360,000
	外科学	海堀 昌樹	講師	手術後創部痛の完全克服を目的とした埋め込み式持続鎮痛ゲルの開発	1,100,000	330,000
	病理学第一	比舎 弘子	講師	腸幹細胞動員における神経系シグナルの関与の検討：幹細胞分化可視化マウスを用いて	1,500,000	450,000
	内科学第三	岡崎 和一	教授	自己免疫性膵炎の発症機序とIgG4産生制御に関する免疫学的研究	1,400,000	420,000
	内科学第二	宮坂 陽子	講師	肥満による左室拡張能と血管内皮機能への影響、およびその運動療法の効果に関する検討	1,100,000	330,000
	内科学第二	大谷 肇	准教授	マイクロRNAを標的とした心筋再生療法に関する研究	500,000	150,000
	精神神経科学	加藤 正樹	講師	うつ病個別化治療アルゴリズムの構築および実臨床使用への発展	1,200,000	360,000
	産科学・婦人科学	岡田 英孝	講師	細胞外基質Fibulin-1の解析による着床障害の病態解明	1,300,000	390,000
	産科学・婦人科学	神崎 秀陽	教授	低酸素・内分泌環境における子宮内膜の血管新生因子の発現調整	1,400,000	420,000
	外科学	浜田 吉則	准教授	EGFとIPCによる小腸移植時における虚血再還流障害の抑制	1,100,000	330,000
若手研究(B) 新規	神経内科学	和手 麗香	助教	質量顕微鏡を用いた神経細胞内封入体の研究	1,700,000	510,000
	生理学第二	林 和子	助教	相対的価値の選択におけるセロトニン系の役割	1,700,000	510,000
	生理学第一	林 美樹夫	助教	膵臓外分泌細胞に存在する陰イオンチャンネル蛋白の構造機能協関	2,000,000	600,000
	薬理学	東 淳子 (吉岡 淳子)	研究員	弾性線維維持・再生におけるDANCEの役割の解析	1,700,000	510,000
	臨床検査医学	吉賀 正亨	助教	質量顕微鏡を用いた中枢神経系での内因性ジギタリスの産生分泌機構の解明	1,800,000	540,000
	内科学第三	吉田 勝紀	助教	原発性胆汁性肝硬変症の新たなバイオマーカーと免疫療法の検討	1,200,000	360,000
	衛生学	松岡 由和	助教	ヒト骨髓ニッチにおける造血幹細胞支持機構の解明と造血幹細胞体外増幅法の開発	1,600,000	480,000
	放射線科学	米虫 敦	助教	血管内皮カドヘリンを介したタイトジャンクション制御の経動脈的治療への応用	700,000	210,000
	精神神経科学	齊藤 幸子	助教	ミラーニューロンの形態変化：拡散テンソル画像解析による統合失調症治療効果判定	2,000,000	600,000
若手研究(B) 継続	生理学第二	渡邊 雅之	講師	判断の「いい加減さ、慎重さ」はどのように調節される？—黒質網様部・抑制出力の解析	1,600,000	480,000
	内科学第三	村田 美樹	助教	B型慢性肝炎におけるTGF-βシグナル伝達機構の臨床応用	1,000,000	300,000
	生体情報部門	大谷 真志	助教	抗原提示細胞のmTORC1を介したIL-10発現制御機構の解明と腸炎における役割	1,500,000	450,000
	分子遺伝学部門	植田 祥啓	講師	Rap1シグナルによる胚中心B細胞の動態調節の研究	1,600,000	480,000

大 学

(単位：円)

研究種目等	研究代表者			研究課題	交付内定額	
					直接経費	間接経費
若手研究(B) 継続	医化学	片野 泰代	講 師	慢性疼痛の発生・増強機構の解明を目的とした新規機能性分子の解析	1,600,000	480,000
	内科学第二	岩崎 真佳	助 教	多能性ヒトMesoangioblastの末梢循環への動員機序の解明	1,500,000	450,000
	神経内科学	中村 正孝	助 教	筋萎縮性側索硬化症におけるTDP-43陽性封入体の部位別神経変性機序の検討	1,200,000	360,000
	皮膚科学	植田 郁子	助 教	サルコイドーシスにおけるB細胞およびBAFFの異常と単球の関与	1,900,000	570,000
	精神神経科学	嶽北 佳輝	助 教	統合失調症個別化治療アルゴリズム構築に向けた第2世代抗精神病薬の無作為比較試験	800,000	240,000
	放射線科学	津野 隆哉	助 教	IFN- α と放射線治療効果増強に向けたBID分子標的療法の検討	1,300,000	390,000
	放射線科学	中谷 幸	助 教	CT透視下穿刺支援デバイスシステムの開発	600,000	180,000
	病理学第二	垪 貴司	講 師	乳癌細胞株に対するヒト絨毛性ゴナドトロピンを用いた革新的な乳癌治療法の開発	600,000	180,000
	眼科学	城 信雄	助 教	アディポサイトカインによる糖尿病網膜症における病態の解明と新しい治療法の開発	1,000,000	300,000
	衛生学	中塚 隆介	助 教	細胞外環境が歯髄幹細胞の未分化性維持に及ぼす影響	700,000	210,000
挑戦的萌芽研究 新規	医化学	下條 正仁	講 師	神経因性疼痛における神経選択的スプライシングを標的とした発症機序解明	1,900,000	570,000
	内科学第二	塚口 裕康	講 師	次世代技術を用いた腎糸球体ポドサイトと末梢ニューロンを傷害する疾患遺伝子探究	1,400,000	420,000
挑戦的萌芽研究 継続	医化学	伊藤 誠二	教 授	多光子励起顕微鏡による痛みのゲートコントロール説の遺伝子改変マウスでの実証	800,000	240,000
	放射線科学	播磨 洋子	准教授	放射線抵抗性子宮頸癌の治療戦略としてのエピジェネティクスの遺伝子制御の解明	1,000,000	300,000

(単位：円)

研究種目等	内定件数	交付内定額（直接経費）	交付内定額（間接経費）
基盤研究（C）	32	43,900,000	13,170,000
若手研究（B）	23	31,300,000	9,390,000
挑戦的萌芽研究	4	5,100,000	1,530,000
合 計	59	80,300,000	24,090,000

大 学

平成23年度科研費(分担者)一覧(文部科学省・日本学術振興会)

(単位:円)

研究種目等	研究分担者			研究代表者		直接経費	間接経費
新学術領域研究	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	名古屋大学	教授 宮田 卓樹	870,000	261,000
基盤研究(A)	内科学第三	岡崎 和一	教授	金沢医科大学	教授 梅原 久範	700,000	210,000
基盤研究(B)	小児科学	石崎 優子	准教授	東京医科歯科大学	教授 丸 光恵	210,000	63,000
基盤研究(B)	解剖学第二	丸山 正人	講師	京都大学	准教授 服部 明	600,000	180,000
基盤研究(C)	医化学	伊藤 誠二	教授	大阪工業大学	教授 芦高恵美子	35,000	10,500
基盤研究(C)	解剖学第一	若林 毅俊	准教授	岡山大学	准教授 小阪 淳	300,000	90,000

平成24年度厚生労働科学研究費補助金交付内定者(代表者)一覧

(単位:円)

研究事業名	研究代表者			研究課題	直接経費	間接経費
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業	共同研究講座 (大塚製薬株式会社) 幹細胞異常症学	池原 進	教授	灌流法により採取された骨髄細胞を用いた骨髄内骨髄移植療法:基礎から臨床へ	4,250,000	1,274,000
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	微生物学	上野 孝治	助教	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析	5,000,000	1,500,000

平成23年度厚生労働科学研究費補助金(分担者)一覧(事務委任分)

(単位:円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患克服研究事業	微生物学	竹之内徳博	准教授	重症病別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	鹿児島大学 教授 出雲 周二	2,500,000	0
	分子遺伝学部門	木梨 達雄	教授	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究	関西医科大学 教授 岡崎 和一	700,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教授	新規疾患、IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+ MOLPS)の確立のための研究	金沢医科大学 教授 梅原 久範	800,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教授	難治性膀胱疾患に関する調査研究	東北大学 教授 下瀬川 徹	1,400,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教授	原因不明小腸潰瘍症の実態把握、疾患概念、疫学、治療体系の確立に関する研究	慶應義塾大学 教授 日比 紀文	500,000	0
	内科学第三	岡崎 和一	教授	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	東京医科歯科大学 教授 渡辺 守	1,000,000	0
	神経内科学	日下 博文	教授	封入体筋炎(IBM)の臨床病理学的調査および診断基準の精度向上に関する研究	東北大学 教授 青木 正志	1,000,000	0

大 学

(単位：円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
難治性疾患克服 研究事業	小児科学	蓮井 正史	非常勤 講 師	外胚葉形成不全免疫不全症の実態 調査と治療ガイドラインの作成	独立行政法人 国立成育医療研究 センター研究所 部長 小野寺 雅史	500,000	0
	眼科学	高橋 寛二	教 授	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する 調査研究	名古屋市立大学 教授 小椋祐一郎	3,000,000	0
	眼科学	高橋 寛二	教 授	血管新生黄斑症に対するペプチド ワクチン療法	滋賀医科大学 教授 大路 正人	2,500,000	0
免疫アレルギー疾患 等予防・治療研究 事業	内科学第一	森 眞一郎	講 師	灌流法により採取された骨髄細胞 を用いた骨髄内骨髄移植療法：基 礎から臨床へ	関西医科大学 教授 池原 進	680,000	0
食品の安全確保推 進研究事業	病理学第二	螺良 愛郎	教 授	アラキドン酸補給の安全性に関する 研究	富山大学 教授 浜崎 智仁	1,130,000	0
医薬品・医療機器 等レギュラトリー サイエンス総合研 究事業	小児科学	石崎 優子	准教授	小児等の特殊患者に対する医薬品 の適正使用に関する研究	香川大学 教授 伊藤 進	255,000	0
がん臨床研究事業	外科学	井上健太郎	講 師	治癒切除後の再発リスクが高い進行 胃癌(スキルス胃癌など)に 対する標準的治療の確立に関する 研究	兵庫医科大学 教授 笹子三津留	300,000	0
障害者対策総合研 究事業	精神神経科学	杉本 達哉	助 教	自殺対策のための複合的介入法の 開発に関する研究	独立行政法人 国立精神・神経医療 研究センター 部長 山田 光彦	200,000	0
医療技術実用化総 合研究事業	耳鼻咽喉科学	友田 幸一	教 授	顕微鏡感覚で使え、安心・安全を 提供する手術用立体内視鏡シス テムの試作開発と臨床応用	浜松医科大学 准教授 山本 清二	700,000	0
循環器疾患糖尿病 等生活習慣病対策 総合研究事業	健康科学	木村 稔	教 授	生活習慣病予防のための運動を阻 害する要因とその原因別の対策に 関する研究	東京大学 講師 竹下 克志	1,000,000	0
	健康科学	木村 稔	教 授	保健指導を中心とした地域におけ る脳卒中及び心筋梗塞の再発予防 システムとエビデンス構築に関する 研究	名古屋市立大学 特任教授 大森 豊緑	2,000,000	0
新型インフルエンザ等 新興・再興感染症 研究事業	微生物学	田中 正和	助 教	HTLV-1感染症ワクチンの開発に 関する研究	国立感染症研究所 部長 長谷川 秀樹	5,000,000	0

平成23年度厚生労働省がん研究開発費(分担者)一覧(事務委任分)

(単位：円)

研究事業名	研究分担者			研究課題	研究代表者	直接経費	間接経費
がん研究開発費	放射線科学	谷川 昇	准教授	有効なIVR手技の開発と標準化の ための多施設共同研究	独立行政法人 国立がん研究センター 中央病院副院長/ 放射線診断科科長 荒井 保明	800,000	200,000

大 学

平成23年度研究助成金等受贈者(採択)一覧

平成23年度に募集のあった各種助成財団による研究助成金等を下記の研究者が贈呈された。

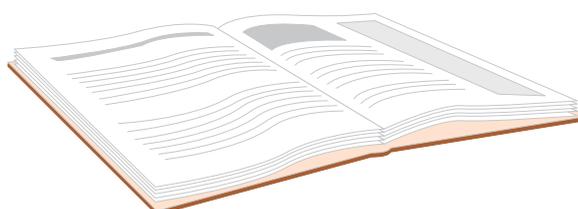
研究助成法人・団体等	受贈者	研究課題等	助成額等
一般財団法人 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 平成23年度研究助成金	外科学 権 雅憲 教授	漢方薬の肝障害抑制効果のスクリーニングと有効成分の同定	200万円
一般財団法人 藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会 平成23年度研究助成金	内科学第一 野村 昌作 教授	細胞由来マイクロパーティクルと樹状細胞による免疫誘導制御機構に関する研究	200万円
公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成23年度研究助成金	内科学第二 西川 光重 教授	脂肪細胞における甲状腺ホルモン代謝と作用に及ぼす喫煙の影響	250万円
財団法人 メンタルヘルス岡本記念財団 平成23年度研究活動助成金	小児科学 石崎 優子 講師	難病・心身障害・発達障害を持つ患者ときょうだい・保護者の心の健康づくりのための講演会と地域におけるサポートネットワーク構築の試みⅢ-東日本大震災被災地の子どもと家族の支援キャンプ	30万円
公益財団法人 森永奉仕会 平成22年度研究奨励金	小児科学 辻 章志 講師	未熟児動脈管開存症におけるインドメサシン症による乏尿の出現機序に関する研究：尿中Aquaporin-2の検討	50万円
財団法人 安田記念医学財団 平成23年度癌研究助成	病理学第一 上野 博夫 教授	マルチカラーモザイクマウスを用いた大腸がん、皮膚がん、乳がんの腫瘍形成過程における責任細胞の解析	200万円
公益財団法人 武田科学振興財団 2011年度「ビジョナリーリサーチ助成」	薬理学 中邨 智之 教授	弾性線維の再生 ～マトリックス創薬への第1歩～	200万円
公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成23年度研究推進特別助成金	病理学第一 上野 博夫 教授	可溶受容体による造血幹細胞とニッチの剥離	400万円
財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 岩本 慈能 講師	Stage III (Dukes' C) 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としてのカベシタピンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	6万円
財団法人 三井生命厚生事業団 第44回(平成23年度)「医学研究助成」	内科学第二 宮坂 陽子 講師	肥満患者の運動療法が左室拡張能に及ぼす影響	100万円
財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 岩本 慈能 講師	大腸癌術後の消化管機能異常に対する大健中湯(DKT:TJ-100)の臨床的効果(プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験)	35万円
財団法人 新技術開発財団 第21回(平成24年度)植物研究助成	物理学 楠本 邦子 准教授	軟X線顕微鏡による有毒藍藻の細胞内構造可視化法の開発	105万円
財団法人 がん集学的治療研究財団 研究助成金	外科学 徳原 克治 助教	pTNM stage II 直腸癌症例に対する手術単独療法及びUFT/PSK療法のランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	3万円
日本イーライリリー株式会社 寄付・助成金	小児科学 石崎 優子 講師	眼球運動測定による学童期発育障害児の学校における問題の神経生理学的評価	70万円
財団法人 細胞科学研究財団 平成23年度研究助成金	病理学第一 上野 博夫 教授	マルチカラーモザイクシステムを用いたApcminモデルマウスにおける腸幹細胞維持機構の破綻の解析	300万円
公益財団法人 武田科学振興財団 2011年度医学系研究奨励	内科学第一 宮本 理恵 研究員	全身性エリテマトーデスにおける樹状細胞	300万円
公益財団法人 武田科学振興財団 2011年度医学系研究奨励	衛生学 松岡 由和 助教	ヒト骨髄由来間葉系幹細胞によるヒト造血幹細胞の支持機構の解明	300万円
公益財団法人 三菱財団 第42回 (平成23年度)三菱自然科学研究助成	病理学第一 上野 博夫 教授	マルチカラー動画解析法による腸上皮細胞の多段階発がんモデルの検証	400万円

大 学

平成23年度内閣府、文部科学省、(独)科学技術振興機構 競争的・非競争的資金採択一覧

(単位:円)

事業名	研究課題名	研究代表者	共同研究者、研究分担者	直接経費	間接経費
内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発	病理学第一講座 上野 博夫 教授	—	39,170,000	11,751,000
内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム	生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究	薬理学講座 中邨 智之 教授	—	52,980,000	15,894,000
文部科学省 研究開発施設共用等促進費補助金(橋渡し研究支援)	低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究	浜松医科大 他	耳鼻咽喉科学講座 友田 幸一 教授	400,000	—
文部科学省 科学技術試験研究委託事業次世代がん研究戦略推進プロジェクト	がん幹細胞を標的とした根治療法の開発	金沢大学 他	衛生学講座 菌田 精昭 教授	1,818,182	181,818
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST	接着制御シグナルの破綻と自己免疫疾患	附属生命医学研究所 分子遺伝学部門 木梨 達雄 教授	内科学第三講座 岡崎 和一 教授	24,200,000	7,260,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	ドパミン-セロトニン相互抑制による報酬・嫌悪情報処理機構	生理学第二講座 中村 加枝 教授	—	15,370,000	4,611,000
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 さきがけ	質量顕微鏡法による神経伝達物質のイメージング	医化学講座 矢尾 育子 講師	—	21,000,000	6,300,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	体性幹細胞を用いるヒト造血幹細胞の体外増幅システムの開発	衛生学講座 菌田 精昭 教授	—	1,307,693	392,307
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	注意欠陥・多動性障害の病態評価を眼球運動で行う新しい診断法の開発	生理学第二講座 渡邊 雅之 講師	—	1,307,320	392,196
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	小型ワイヤレス骨伝導音声伝達機器を用いた認知症の確定診断とサポート	精神神経科学講座 田近 亜蘭 助教	—	1,307,693	392,307
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	網膜神経節細胞選択的に遺伝子導入が可能なレンチウイルスベクターの開発	解剖学第一講座 若林 毅俊 准教授	—	884,616	265,384
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 A-STEP探索タイプ	関節症診断マーカーとしての抗低硫酸化型ケラタン硫酸モノクロナル抗体作成	薬理学講座 赤間 智也 准教授	—	660,000	198,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 先端計測・機器開発PG ソフトウェア開発タイプ	質量顕微鏡法における空間特異的情報検出ソフトウェアの開発	がん研究会、島津製作所、浜松医大 他	医化学講座 矢尾 育子 講師	3,200,000	960,000
(独)科学技術振興機構 研究成果展開事業 先端計測・機器開発PG ソフトウェア開発タイプ	顕微質量分析装置の活用・普及促進	がん研究会、慶応大、浜松医大 他	医化学講座 矢尾 育子 講師	400,000	120,000
(独)科学技術振興機構 戦略的国際科学技術協力推進事業	内向き整流性K ⁺ チャンネルへのパオメディン	生理学第一講座 岡田 誠剛 講師	—	1,820,000	180,000



内部監査室

平成23年度・24年度の内部監査

内部監査室長 稲垣 千代子

平成23年度内部監査を下記の項目で実施し、平成24年度内部監査計画を理事長に提出して承認されました。本年度の内部監査も本学の業務が合法的且つ合理的・効率的に遂行されることを目指して評価し、本学の発展に資する助言ができるよう努めます。

1. 平成23年度内部監査

以下の項目について点検・調査し、問題点の改善に向けて助言しました。

年次監査

- 1)「各種研究助成費管理状況(平成22年度実績)」
- 2)「事務業務の外部委託状況」
- 3)「各種研究助成費管理状況(平成23年度経過モニタリング)」

理事長・学長特命監査

- 1)「教育目標とカリキュラムおよび評価」

2. 平成24年度内部監査計画

年次監査

- 1)監査項目：各種研究・教育補助金管理状況(平成23年度実績)

監査対象部署：学部研究課及び関連部署

監査日程：平成24年7月～8月

- 2)監査項目：災害対応体制

監査対象部署：全部署

監査日程：平成24年10月～平成24年12月

- 3)監査項目：各種研究・教育補助金管理状況(平成24年度モニタリング)

監査対象部署：学部研究課及び関連部署

監査日程：平成24年12月～平成25年2月

理事長・学長特命監査

医療安全管理センター

平成23年度インシデント報告集計

医療安全管理センターでは、このほど附属病院の平成23年度インシデント報告を集計しました。それによると総報告数は、8,936件で患者への影響レベル別にした件数は、別表のとおりです。

なお、インシデント報告は過失の有無とは無関係で医療行為とは直接関係のないものも含めて集計しています。

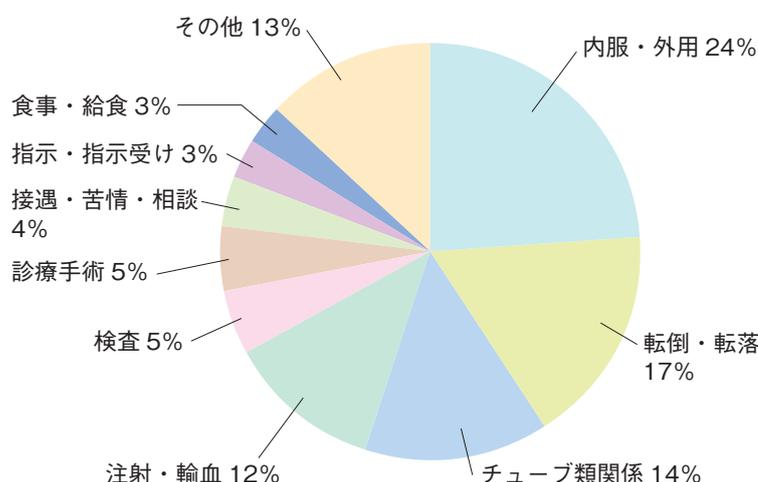
「内服・外用」「転倒・転落」「チューブ類関係」「注射・輸血」が6割以上

インシデント内容は(1)内服・外用、(2)転倒・転落、(3)チューブ類、(4)注射・輸血に関するものが多く、これらで全体の6割以上を占めています。同センターでは、今後も附属病院の事例検討を通じて、情報や対策の共有を図り、大学全体の医療安全向上を図ります。

患者さんへの影響レベル別
インシデント報告数

事故が発生する前に気がついた	1,179件
事故は発生したが患者への実害はなかった	4,890件
観察強化などが必要であるが、処置や治療は不要であった	1,950件
処置や治療を要した	917件
総計	8,936件

発生の主な要因



病 院

◆1～4月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月21日	【枚方】ウインターコンサート	附属枚方病院
2月4日	【滝井】市民公開講座	守口文化センター
2月10日	【枚方】私大協相互ラウンド実施	附属枚方病院
2月17日	【滝井】検証消防訓練	附属滝井病院
2月24日、 3月14日	【枚方】新人看護師修了式	附属枚方病院
2月27日	【枚方】北河内緩和ケア講演会	附属枚方病院
2月29日	【枚方】業務改善コンテスト発表会	附属枚方病院

日程	行事名	場 所
3月3日	【滝井】よくわかる肝臓病セミナー	附属滝井病院
3月14日	【枚方】院内ボランティア表彰式	附属枚方病院
3月17日	【滝井】業務改善コンペディション発表会	附属滝井病院
3月17日	【香里】業務改善コンテスト発表会	香里病院
3月26日	【枚方】看護部辞令交付式	附属枚方病院
3月29日	【枚方】保育所卒園式	附属枚方病院
4月7日	【香里】市民公開講座	アルカスホール
4月17日	【枚方】医療安全講演会	附属枚方病院

附属枚方病院

チェロの演奏にうっとり ウインターコンサート開催

1月21日(土)午後1時30分から13階講堂において、昨年に引き続き「日本センチュリー交響楽団」から、チェロ奏者の高橋宏明さん、末永真理さん、望月稔子さん、綿貫直美さんの4名をお招きし、ウインターコンサートを開催しました。患者さんやご家族の方ら約130名が集いました。今回はクラシック音楽・映画音楽メドレー・冬の演歌集などバラエティ豊かな内容で、チェロの素敵な音色が会場に響きわたり、参加された皆さんは、プロの演奏を楽しみました。



チェロの生音に接し、憩いのひとときを過ごす参加者

私大協医療安全・感染対策の相互ラウンド



ラウンドチェックの様子

2月10日(金)午後1時30分から、私立医科大学協会による医療安全ならびに感染対策の相互ラウンドが開催されました。愛知医科大学病院より高安正和副院長・医療安全管理室長、今井裕一教授・インシデント専門委員長ほか計5名の医療安全管理者が来院され、自己評価ヒアリングと院内ラウンドが行われました。講評では、病院長やスタッフの取り組みが良く、安全面について高評価された一方、ハイリスク製剤の使用手順書が未整備であることの指摘を受けました。また、感染対策については、愛知医科大学病院感染制御部の三嶋廣繁教授と感染対策専従看護師、薬剤師の方々によるチェックを頂きました。三嶋教授には、平成23年1月に枚方病院の感染対策研修会で講演いただいたご縁もあり、多くの前向きな指摘を頂き、迅速な改善に取り組んでいます。

枚方病院のオリジナル「どら焼き」誕生！！



附属枚方病院のオリジナルどら焼き

京阪電車枚方市駅からビオルネの間を抜け、京街道を少し大阪寄りに入った所に、どら焼きの「あかつき」一筋で明治40年から創業している「呼人堂」というお店があるのをご存じでしょうか。この度、そのどら焼きに「関西医大枚方病院」の焼印が入ったオリジナル商品が誕生しました。手土産や贈答品にする機会がありましたら、PR効果も抜群ですのでぜひご利用ください。本店でのみ取り扱っておりますが、電話で前日までに注文が必要です。



◆呼人堂
枚方市岡本町10-3
電話072-841-2713

病 院

院内ボランティア活動者に対する表彰式、交流会を開催

枚方病院では、院内ボランティア活動のスタートから4年を迎え、現在46名のボランティアの皆さんに登録・活動をいただいております。このたび活動4周年を記念し、3月14日(水)午後1時から、今村洋二病院長より累計500時間以上活動されたボランティアの方に感謝状が、また11名のボランティアの皆さんにはメッセージカードがそれぞれ手渡されたほか、記念撮影が行われるなど、活動の労がねぎらわれました。さらに、ボランティアの皆さんと病院長及びボランティア委員会のメンバーによる交流会が行われました。



今村病院長からボランティアの皆さんに、日頃の活動に対する謝辞が述べられました。

附属滝井病院

寄稿



平成21年4月に開設された附属滝井病院血液呼吸器内科の禁煙外来は今年で3年目を迎えます。開設以降平成24年3月までに治療を終了した患者数は約180名になりました。私は平成23年4月から外来を担当させていただいておりますが、その間の患者数は54名で、3ヶ月後の喫煙状況が確認できた43名のうち65%にあたる28名が禁煙を達成することができました。全国の禁煙外来における禁煙成功率はだいたい60~70%ですので、全国平均レベルといえます。禁煙治療は平成18年4月から一部の施設で保険適用となりました。ただし①ニコチン依存についてのスクリーニングテストの結果、ニコチン依存症と診断される、②プリンクマン指数が200以上、③直ちに禁煙することを希望、④禁煙治療について説明を受け、治療

禁煙外来開設3周年を迎えて

附属滝井病院血液呼吸器膠原病内科 助教 札谷 直子

を受けることを文書により同意、という4つの条件を全て満たし、かつ医師が必要と認めた場合に限り、保険を使って治療することができます。

当外来では初回受診された方に対して丁寧に問診を行い、喫煙の状況や禁煙への関心度をチェックしています。そして、呼気中の一酸化炭素の濃度の測定や治療法の説明などを行った後、禁煙補助薬による治療を開始します。初回から2週、4週、8週目の受診時には、禁煙状況の確認、呼気中の一酸化炭素の濃度の測定を行います。禁煙が困難な方に対しては、その原因を探り、対処法を話し合います。12週目の外来が最終回となり、禁煙が達成できていれば、そのまま禁煙を継続していくよう指導します。

今後の抱負としては、治療途中で通院を中断される方へのサポート、治療後の禁煙継続のためのフォローを行い、少しでも禁煙達成率を上げ、また禁煙を継続していくための手助けが出来れば、と考えております。

脳卒中センターを設置

平成24年1月、救命救急センター内に脳卒中センターを開設しました。このセンターは、北河内2次医療圏における救急医療の中心的役割を担うため、脳神経外科を中心とした関連各科と救命救急センターとが連携を図り、脳卒中、頭部・脊髄外傷などの救急患者を積極的に受入れ、最新かつ質の高い治療を提供します。センターの開設に伴い、救急隊からの要請による脳神経系2次救急患者の受け入れも可能となりました。

産婦人科病棟をリニューアルしました

附属滝井病院は3月に産婦人科病棟を本館3階から北館5階に移設し、全面的に内装改修工事を行いました。これにより、安心・安全な医療はもとより、アメニティにも十分配慮した明るく快適な環境を提供できることになりましたので、今後ともよろしくお願ひします。

詳細は当院ホームページをご覧ください。

<http://www.kmu.ac.jp/takii/>



リニューアルした病室

病 院

第14回市民公開講座開催

西山教授
渡航外来と健康について講演する



第14回市民公開講座(附属滝井病院担当)が2月4日(土)午後2時から守口文化センターエナジーホールにおいて開催され、87名が参加しました。脳神経外科学講座(附属滝井病院脳神経外科)の山内康雄准教授が座長を務め、公衆衛生学講座の西山利正教授が「渡航外来と健康～予防接種に注目して～」、放射線科学講座(同病院放射線科)の宇都宮啓太講師が「原発事故とRI内用療法」、形成外科学講座(同病院形成外科)の覚道奈津子助教が「形成外科の基礎知識～しみ・ほくろの診断から傷あとの治療まで～」とそれぞれ題して講演、受講者は熱心に聴講し、講演後は3氏による質問コーナーも行われました。

安全・安心の取り組み 消防訓練を実施

2月17日(金)午後3時30分から「消防訓練」を実施しました。訓練は、夜間に北館3階83病棟の湯沸し室から出火し、自衛消防隊の当直看護師らが消火や避難誘導にあたるという想定のもとに実施されました。当日は、守口消防署員が立会いのもと、約50名の職員が参加しました。参加した職員は、普段の仕事とは違う緊張した面持ちで、真剣に消火活動や患者さんの避難誘導等に取り組みました。万一の火災の発生に備えての実践さながらの訓練でしたが、素晴らしいチームワークを発揮し「大変良い経験をさせてもらった」との声も聞かれ、消防署からも、職員の行動は、迅速適切であったとの講評をいただきました。当院は、今後も「火災ゼロ」を目指すとともに、訓練を活かし、有事の際の円滑な活動を職員に期待します。

香里病院

市民公開講座に188名が参加

4月7日(土)午後2時30分から、寝屋川市立地域交流センターアルカスホールで、香里病院としては4回目となる市民公開講座を開催しました。参加者は188名で、過去4回の中で最多となりました。メインテーマは「糖尿病と目の病気」で、座長は高山康夫病院長が務めました。演題と講師は次の通りです。

「心臓病と腎臓病から見た糖尿病の治療」

内科 高橋延行 准教授

「糖尿病と目の関係～糖尿病眼合併症について～」

眼科 埜本 慎 講師



講演する高橋准教授



大勢の参加者が詰め掛けた会場

香里病院の夕方診療日程が追加されました

乳腺外科では4月19日から木曜日の夕方診療を追加しました。また、腎泌尿器外科でも5月1日から火曜日の夕方診療が加わりました。さらに、6月1日から耳鼻咽喉科で月・木・金曜日の夕方診療を追加します。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
乳腺外科	○			○	
婦人科		○			○
腎泌尿器外科		○		○	
耳鼻咽喉科	○	○		○	○

卒後臨床研修センター

◆1～4月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月27日	看護実践支援部門副部長研修	附属枚方病院
1月30日	看護実践支援部門管理者研修	附属枚方病院
2月4日	看護実践支援部門教育担当者・臨床実習指導者研修	附属枚方病院
2月18日	看護実践支援部門シスター研修	附属枚方病院
3月16日	研修管理委員会	附属枚方病院
3月22日	臨床研修医臨床研修修了式	附属枚方病院

日程	行事名	場 所
4月2日	臨床研修医入職式	附属枚方病院
4月2～11日	平成24年度採用研修医オリエンテーション	附属枚方病院
4月7～8日	平成24年度採用研修医ワークショップ	ホテルコスモスクエア 国際交流センター
4月14日	平成25年度採用臨床研修説明会	リーガロイヤルホテル(大阪)

看護実践支援部門が2研修を実施

看護実践支援部門では1月27日(金)に部署内の人材育成や看護マネジメントについての看護副部長研修を、1月30日(月)に労務管理についての看護管理者研修をそれぞれ実施しました。看護副部長研修では研修終了後にも講師を囲み質問や相談が多数あり、有意義な研修となりました。看護管理者研修では法的知識や就業規則を踏まえて現状の問題点に対する解説もあり、現状の課題の解決に繋がる学びとなりました。



看護管理者研修の様子

平成24年度初期研修医入職 新オリエンテーションプログラム実施



44名の研修医が新たに職業人人生のスタートを切りました

桜の咲く4月2日(月)に、臨床研修医入職式が挙行されました。今村洋二附属枚方病院長の祝辞の後、金子一成卒後臨床研修センター長から、本年度採用研修医44名に対し辞令交付と一人ひとりに白衣が授与されました。今年度から医学教育センターの協力により、厚生労働省・研修医到達目標に準拠したオリエンテーションプログラムに改変されました。一日の終わりには毎日リフレクションを行い、行動目標を立てることで、医師としての自覚と使命感を再認識するプログラムとなりました。最終日には研修医全員が今村病院長に研修医生活に対する使命宣誓を行い、心新たに職業人人生のスタートを切りました。

44名が初期研修修了

平成22年度に採用した臨床研修医の修了式が3月22日(木)午後4時から、附属枚方病院13階講堂で挙行され、附属枚方病院の37名、附属滝井病院の7名がそれぞれ修了しました。式典では今村洋二附属枚方病院長が「これから試練が続くが、努力して一步一步前へ進んでもらいたい」、金子一成卒後臨床研修センター長が「本学で研修した誇りと、けじめを大切にしてください」と、それぞれエールを贈りました。



記念の集合写真に収まる修了生の皆さん

女性医師支援のパンフレット完成

本学で働く女性医師を支援するためのパンフレット『女性医師支援のご案内』を3月に発行しました。パンフレットはA4版フルカラー、全8ページで、3千部を発行、平成21年4月に導入した「短時間勤務正職員制度」や出産・育児に関する休暇、附設保育所、女性医師復帰プログラムといった本学の女性医師支援に関する取り組みに加え、先輩女性医師の応援メッセージなどが掲載されています。ご入用の方は卒後臨床研修センター(電話072-804-2847)までご連絡ください。



完成した女性医師支援のパンフレット

卒後臨床研修センター

研修病院説明会「eレジフェア」に出展

医学生・初期研修医向けの研修病院説明会「eレジフェア」が3月20日(火)午前10時から、大阪南港のATCで開催され、本学枚方、滝井の両附属病院の合同ブースを出展、本学ブースには医学生67名、研修医2名が訪問しました。ブースでは初期研修1年目の研修医3名、同2年目の研修医1名が来場者と対応し、学生に本学の研修の概要や特徴などについて説明しました。

また、フェアの企画として、金子一成卒後臨床研修センター長の「小児科セミナー」が行われ、金子センター長は事例を挙げながら小児科医の魅力や特徴をアピールしました。



来場者でにぎわう本学の出展ブース

卒後臨床研修センター臨床研修合同説明会開催

研修プログラムの説明などが行われた合同説明会



平成25年度の臨床研修医募集のための附属枚方病院・附属滝井病院臨床研修合同説明会が4月14日(土)午後4時30分からリーガロイヤルホテルにおいて開催されました。参加者は本学が26名、学外が8名の合計34名で、金子一成卒後臨床研修センター長をはじめ今村洋二附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長、及び高山康夫香里病院長の挨拶の後、本学の研修プログラムについて金子センター長から説明がありました。また、松田公志クリニカル・シミュレーションラボ室長からラボについての紹介があったほか、現役の研修医から体験談などが話されました。その後、各科から指導する立場の教員が加わって懇親会が行われました。

平成25年度 関西医科大学臨床研修医募集要項

(1) 採用人数

附属枚方病院プログラム 40名
 附属枚方病院小児科重点プログラム 2名
 附属枚方病院産婦人科重点プログラム 2名
 附属滝井病院プログラム 9名

(2) 応募手続き

1) [応募先]

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1
 関西医科大学卒後臨床研修センター 宛

2) [応募期間]

現在受付中。
 締切りは平成24年7月7日(土) ※当日消印有効
 (センターに直接提出する場合、月～金曜日は9時から17時10分、第1、3土曜日は9時から13時までの時間帯に受け付けます)
 提出受付場所：附属枚方病院 研修棟2階事務室
 附属滝井病院 A棟5階事務室

3) [応募書類]

- ①臨床研修医採用申請書：本学所定の用紙を使用してください(記入・押印は遺漏のないようにしてください)。
- ②受験票、受験者照合(写真)票：本学所定の用紙を使用してください(記入・押印は遺漏のないようにしてください)。

- ③写真：最近3か月以内に撮影した脱帽正面向き上半身のもの3枚(カラー写真、たて5cm×よこ4cm、3枚とも同じもの)を所定欄に貼付してください。

4) [応募上の注意]

- 応募書類は郵送(書留)または直接提出に限ります。書類不備の場合は受理できません。
- 一度受理した応募書類は、いかなる理由があっても返還いたしません。また、応募書類上の個人情報、当センターの事業以外の目的には使用しません。

(3) 試験日時

筆記試験：平成24年7月25日(水)14:00～16:00
 面接試験：平成24年7月27日(金)14:00～17:00(予定)

(4) 試験場

筆記試験：関西医科大学附属滝井病院 6階臨床講堂
 面接試験：関西医科大学附属枚方病院 13階合同カンファレンスルーム他

(5) 問合せ先

関西医科大学卒後臨床研修センター
 枚方分室事務局(本部)
 電話番号：072-804-0101 内線3800、3801
 072-804-2848(直通)
 FAX番号：072-804-2952
 E-mail：sotugori@hirakata.kmu.ac.jp

卒後臨床研修センター(特集)

クリニカル・シミュレーションラボを活用しましょう

本学の附属枚方病院研修棟内にあるクリニカル・シミュレーションラボ(CSL)は様々なシミュレータを保有し、ラボ内での利用や機器の貸出を行っています。基本的な技術手技をはじめ、専門的な技術やチーム医療の総合的な学習の場として、医学生や研修医、医師、看護師、看護学生、コメディカルから一般職員までと、他施設の医療関係者など幅広く利用しており、医療技術の向上だけでなく、あらゆる状況下に対応できる医療実践能力の向上につながっています。

組 織 図



◆クリニカル・シミュレーションラボの施設紹介

患者さんへより良い医療を安全に提供するためには常に医療技術を反復して日々積み重ねていく必要があります。クリニカル・シミュレーションラボ(CSL)は現在附属枚方病院研修棟内に3部屋あり、50種類以上の様々なシミュレータを保有しています。これらの機器は、いずれも文部科学省に採択された事業である『大学病院間の相互連携による優れた専門医等の養成』の「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」と「マグネット病院連携を基盤とした専門医養成」(平成20年度採択)、『大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム』の「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」(平成21年度採択)の補助金によって整備したものです。内視鏡、CVC挿入、採血などスキルトレーニングや救急蘇生関連、患者ケアトレーニング関連、身体診察・診断トレーニング関連など多くのシミュレーション教育が可能です。また時間外利用も可能となりました。詳しくは卒後臨床研修センターまでお尋ね下さい。

ホームページ <http://www.kmu.ac.jp/residency/carrier/csl.html>

●ALSシミュレータ



心停止や外傷を含めたあらゆる急性期患者、急変時の対応を想定した救命処置トレーニングができるシミュレータです。あらかじめシナリオをプログラミング、自発呼吸・気道の状態・各種聴診音・心電図等の様々な臨床状態が変化し、効果的に患者の診断と治療のトレーニングができ、ディブリーフィング機能によりトレーニングの実施結果を振り返ることが可能です。

●GI Mentor

鮮明なバーチャル画像で消化管内腔の病態、内視鏡処置具をシミュレーションできる消化管内視鏡バーチャルシミュレータです。上部、下部内視鏡を挿入して各20症例の診断および治療の練習やゲーム感覚で内視鏡の操作方の練習が可能です。



CSLのシミュレーション機器は様々なシーンで活躍しています



平成23年度のCSLのシミュレーション機器は延べ493件、5407名の利用がありました。医学生の教育ではクリニカル・クラークシップ等の各種実習やOSCE試験に、看護師向けの教育では新人看護職員研修や、採血・静脈内注射認定試験、部署内での教育に、医師や研修医、専修医に対してもCVCの講習会や定期的な研修医勉強会、ACLS講習会を開催し、自主トレーニングにも頻繁にご利用いただいております。医師・看護師など職種を横断しての急変時対応トレーニングや、一般職員なども対象にしたBLS講習会、感染症対策講習会など定期的に活用しています。その他にも小中高生に向けた看護師・医療体験の授業、患者家族への指導や、枚方市の協力を得て潜在看護師の復職トレーニングを行うなど、地域住民の方々にも幅広く活用いただいております。また、2013年度には本学の新学舎が完成し、CSLも約300㎡の規模に拡大され、さらに学習環境が快適になります。

より一層安全安心の医療を提供できるように、大いにCSLのシミュレーション機器をご活用ください。



附属看護専門学校

◆1～4月の主な行事

日程	行事名	場 所
1月11、12日	平成24年度一般入試(前期)	高殿学舎
2月21日	平成24年度一般入試(後期)	高殿学舎
3月5日	平成23年度卒業式	高殿学舎
4月6日	平成24年度入学式	高殿学舎

表して山下敏夫理事長と安田照美附属枚方病院看護部長がそれぞれ祝辞を読み上げ、新入生を激励しました。新入生を代表し狭間由紀さんが宣誓した後、在校生代表の釣聡子さん(2年生)が歓迎の言葉を述べ、さらに新入生の野村文音さんが力強く学生生活の抱負を語りました。

〔 学校長式辞 〕



式辞を述べる
關学校長

本日は入学おめでと
うございます。関西医
科大学附属看護専門学
校の教職員を代表して
心から歓迎の意を表し
たいと思います。また、
皆さんの勉学を今日ま
で支援し、励ましてこ
られたご両親をはじめ
、ご家族や保護者の
皆様方にも心からお祝

いを申し上げます。ご来賓の皆様方には、本日はまことにお忙しいところ、新入生のためにご臨席を賜り、衷心よりお礼申し上げます次第です。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、80周年を迎えた歴史ある看護専門学校です。

本年は女子75名、男子7名、計82名を本学に迎えました。新入生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思えます。看護の道を志した皆さんの当面の目標は、本校を無事卒業し、看護師国家試験に合格することです。皆さんの将来を託された立場にある教職員は全力で皆さんを精一杯支えますが、この3年間は時間的にかなりハードな学生生活が要求されます、是非皆さんも先生方や御家族の期待に応えられるよう、日々勉学に励んで下さい。

本学への入学に際し、皆さんに一言お話をさせて頂きたいと思えます。江戸時代の儒学者で伊藤東涯と云う人物がいます。彼自身が主宰する塾の入塾式つまり、入学式において、塾生に向かって学をなすに三要ありと述べたと云われています。つまり、志なり、勤なり、好なりです。看護専門学校風に言い換えれば、志なりとは、看護師になる志を常に持ち続けること。勤なり、勤勉であること。好なり、看護と云う仕事を好きになること。これが、無事看護専門学校を卒業するための

看護師目指し82名入学

平成24年度入学式を挙

附属看護専門学校の「平成24年度入学式」が4月6日(金)午前10時から高殿学舎で挙行され、82名が入学しました。会場には来賓、保護者らが多数ご臨席されました。式典は關壽人学校長の式辞に続いて、来賓を代

3要素ですが、さらに私はここに敬なり、つまり、敬意を付け加えたいと思えます。いわずもがなですが、敬意とは敬う気持ち。相手を尊敬する心です。皆さんは今後本校の先生方だけではなく、多くの指導者、先輩看護師、あるいは患者さんと正面から向き合い、研鑽に励むこととなります。その方々に対し、常に敬意を表することです。今お話しした4要素は卒業まで是非忘れないでいただきたいと思えます。

次に、学習についての具体的なアドバイスですが、学校での相対的な順位などは気にせず、知識・技術を着実に身に付けていくことです。常に現状における自らの欠損、不十分な点を明らかにし、その対策を立てることが重要です。そして、時間に余裕がなくても出来るだけ読書の時間を確保してください。医療関連にこだわりませんが、事実即して作られた作品つまり、ノンフィクションを読んで下さい。個人で経験できることには限界があります。この限界を埋めるのが読書です。ノンフィクションにも脚色が少なからず付け加えられており、すべてが事実かどうかの検証はできませんが、作品を読むことで代理経験を積むことになり、皆さんの視野が少なからず広がると思えます。

医療者は、多種の社会的背景、経験を有する、患者さんあるいはその家族の方々に対し、正対し信頼、信用が得られないと、円滑な医療を実践できません。自身が未熟であることが許されない業態なのです。当然ですが、一般の方々には、医療はプロフェッショナルの



關学校長の前で宣誓する狭間さんと新入生たち

附属看護専門学校

職業人が遂行していると思っています。看護専門学校での3年間の学習および実習は、まだ未熟である皆さんがプロの職業人となるための助走期間です。この期間をどのように過ごすかで、皆さんのナースとしての将来が規定されると言っても過言ではありません。是非、充実した、悔いのない学生生活を過ごして下さい。

どのような職業訓練にも甘えは許されませんが、しかし何か行き詰まりかけた時は、遠慮せず担任の先生に相談して下さい。担任の先生は皆さんの良きサポーター

です。

将来、皆さんは枚方・牧野の地での勉学となり、学習する環境は若干、変わりますが、皆さんが戸惑うことのないよう、現在も準備が着々と進められていますので安心して下さい。そして、3年後の春に国家試験に合格すれば、看護師として、社会に奉仕する一員となります。3年後に関西医科大学附属病院で同僚として、ともに働けることを願い、私の式辞といたします。

平成24年度新入生（看護学科・第33期生）

【A組 41名】

【B組 41名】

看護師国家試験の結果報告

3月26日(月)に第101回(平成23年度)看護師国家試験の合格発表があり、本校は受験者74名が受験し、73名が合格しました。本学の合格率は98.6%で、全国では90.1%でした。



同窓会

同窓会は人生の「オアシス」

同窓会理事 柄川 武子(34回生)

オアシスoasisは砂漠の中で水が湧き、樹木の繁茂している沃地。生物群集の形成、隊商の休息などに役立つ場所として知られます。同窓会は人生におけるオアシスとすることができるのではないのでしょうか。そして、大学と病院は隊商と看做していいかと言えます。この2つは前進また前進を余儀なく課せられるからです。

「みな医師と見えぬ若さで卒業す」

若き医師となったその後の忙しさは、それぞれに人間としても成長の途上であり、卒業年度別のクラス会にも勤務の都合で欠席してしまいます。まして、母校愛は学生時代に文化活動、スポーツ活動において他校との対抗戦において、母校を意識に置く程度かもしれません。卒後は目の臨床、研究、もしくは日常の家庭生活の中に、同窓会や母校愛は埋没しがちです。しかし年を経るに従い、懐かしいものに育ち始めるのがオアシスという由縁であります。

『おとづれ』の123、132、134、135号に元学長の田代裕名誉教授も特別寄稿に記せられた、われわれの大先輩の母校に対する熱意に目を見張る思いがしました。ぜひ、一読、再読をお勧めします。中でも卒業1回生の堀あさ、川那部喜美子、坂井田いづみの各大先輩の母校に寄せる心は、学生時代からすべてを、大学のため、学生のために捧げるといふものであったことを、敬意をもって文章にさせていただきました。関西医科大学が今日に至り、同窓会創立80周年、財団法人加多乃会設立40周年を迎えることができるのは、そう、一人ひとりが粛々と努力したことによるものに他なりません。誰も一人では成しえないことなのです。小さなことの積み重ねと継続の中に前進が見て取れます。

田代名誉教授の記事(おとづれ135号に掲載)に触発されて、1回生の蔡聯歡(さいれんかん)先輩を2012年1月2日に香港まで訪ねて行きました。彼女の生涯は中国、日本、カナダ、そして中国と政治革命に翻弄された時代を賢明な判断で生きて、活躍され、中国で教授職に就かれたという立派なものです。訪問した39回生西嶋攝子理事と柄川武子の感動は言い知れぬものがこみ上げてきたのです。これも高齢者福祉事業の一環として同窓会と加多乃会に認められました。それに加え、開校当初から、中国からの留学生を受け入れていた大学に敬意を持ったことでした。

さて、現在の同窓会では『おとづれ』の編集を22回生の内藤博江副会長のもと編集委員で毎月の理事会の終了後、時間の許すときに加多乃会館で行います。俳壇担当をするにあたり過去の『校友会雑誌』の俳句を繙きますと、その時代その時代の切り取りが、戦争時代も含めて、生き活きと五七五の短い言葉で詠まれておりました。これからも、一頁ではありますが俳壇に目を通していただくと、編集の甲斐があります。同窓会事務職員の方々の協力には感謝の言葉を贈ります。

また、支部会の行事に招かれますと、卒業生の方々の活躍に触れることができ、大学が全国に根を張ることができていると、喜ぶことができます。私の担当の一部を記しましたが、このように、同窓会は秋田光彦会長のもと月1回の理事会において卒業生の交流の輪、大学の発展にいかんにか貢献することができるかを議論しています。卒業生の母校愛を絶やすことなく、毎年、5月に同窓会の年一度の総会が開かれます。同窓会が人生の「オアシス」でありつづけることを祈ります。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成24年1月1日～4月30日 ※判明分のみ)

松田 公志 教授 (泌尿器科学講座)	日本経済新聞 1月12日(木)夕刊	前立腺がんに関する記事で、放射線治療に対する松田教授のコメントが掲載されました。
宮良 高維 診療教授 (内科学第一講座)	読売新聞 1月16日(月)夕刊	「おしえてドクター」というコーナーにおいて「マイコプラズマ肺炎」や「RSウイルス感染症」の予防に関する記事が掲載されました。
岩坂 壽二 教授 (附属滝井病院長、内科学第二講座)	毎日新聞 3月6日(火)夕刊	狭心症の患者のうち、典型的な症状がなく、狭心症に関係なさそうな症状が表れる患者が約1割いるという研究成果が、1面トップ記事に掲載されました。
岩井 大 准教授 (耳鼻咽喉科学講座)	毎日新聞 3月25日(日)	「第16回耳の日セミナー」(2/26開催)の講師を務めた耳鼻咽喉科・岩井准教授が「めまい・耳鳴り—治療と対策—」と題して話した講演内容が掲載されました。
矢尾 育子 講師 (医化学講座)	日刊工業新聞 4月23日(月)	矢尾講師らのグループが「質量分析イメージング」という手法を使い、神経伝達物質のアセチルコリンが脳神経組織に分布する様子を可視化することに成功した、という内容の記事が掲載されました。

(注)肩書きは掲載(出演)時点

お知らせ

山室研修医とコールクライス部に学長賞授与

2月16日(木)午後12時15分から「学長賞授与式」が専門部学舎1号館大会議室で行われ、附属枚方病院の山室裕香初期研修医とコールクライス部に、山下敏夫学長からいずれも学長賞(社会活動賞)が贈られました。

山室研修医は京阪電車内で人命救助を実施したことが称えられて受賞しました。昨年12月、電車内で心肺停止状態に陥った男性に対して心臓マッサージを行い、呼吸が回復した後、速やかに救急車に引き継ぎ、その後、男性は一命を取り留めました。一刻一秒を争う厳しい状況下、迅速適切な判断で尊い命を救ったとして、1月24日(火)には枚方寝屋川消防組合から感謝状が贈呈されたほか、この救助に関する記事が1月12日(木)の毎日新聞夕刊に大きく取り上げられました。

また、コールクライス部は合唱を通じた震災ボランティア活動が評価されました。東日本大震災の復興を願ひ、大阪医科大学はじめ関西の大学生とともに「ひとつに

なりたい」プロジェクト(本誌2011年11月号(Vol.15)に掲載)を展開し『ひとつになりたい』という合唱曲のCD及びDVDを制作、被災地の教育委員会に無料配布するとともに、一般販売による売上げを被災地に寄付しました。



学長賞を受賞した山室研修医(前列左から2人目)とコールクライス部員(同右から1、2人目)は授与式の後、山下学長(同中央)ら教員と記念撮影

大学、病院で業務改善コンテスト発表会開催

平成23年度の業務改善コンテストの最終審査会が2~3月に大学関係部門と枚方、滝井、香里の3病院で開催され、1次審査を通過したチームによる発表が行われました。枚方病院は今回が2度目、他の3部門は初の試みとなりました。

大学関係部門は3月15日(木)に実施し、総務部人事課の「業務見直しおかチャンズ」が最優秀賞を受賞しました。附属枚方病院は2月29日(水)に行い、医療安全管理部の「『寺子屋医療安全』開校」が最優秀賞に選ばれました。附属滝井病院は3月17日(土)に開催し、臨床工学センターの「病棟の果てまでイッテQ」が最優秀賞を獲得。香里病院も同日に実施し、内視鏡部の「内視鏡チーム」が最優秀賞に輝きました。



山下敏夫理事長・学長(中央)から賞状が手渡される、大学関係部門で最優秀賞に選ばれた総務部人事課のチーム代表

東日本大震災に係る被災地支援について

本学では、昨年3月11日の東日本大震災に際し、被災地の方々に救護、支援するため、直後のDMAT派遣から現在まで計47名の教職員が被災地での医療支援に携わりました。

また支援のための義援金を募り、継続的に四次にわたって患者さんや教職員、学生から寄せられた820万円に上るご厚志を、日本赤十字社を通じて被災された方々に届けました。

これら皆様のご協力に深く感謝申し上げます。また、本学では、引き続き被災者された方々を支援していく方針です。皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

出会いの春。今年も大学、附属看護専門学校に多くの新入生が入学、そして本学に新しい教職員が入職しました。入学、入職から2ヵ月が経ち、新生活にも慣れてきた頃でしょう。友人、教員、職員など日々の多くの出会いに胸が弾んでいることと思います。

一方、別れがあるのも春。3月で内科学第二講座の岩坂教授、放射線科学講座の澤田教授、物理学教室の木原教授が退任されました。長い間、お疲れ様でした。新しい道でのご活躍を祈念いたします。

そして、本学のもう一つの「別れ」といいますと、牧野学舎での医学部入学式が今年で最後となりました。2013年度の入学式は、同学舎と別れ、現在建設中の枚方新学舎で行われます。人生には出会いと別れが付き物。新学舎との出会いまであと10ヶ月です。(山)

関西医科大学広報 Vol.17

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15
TEL 06-6992-1001(代表)
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

平成24年5月31日(木)発行